

## IV シラバス(1年)

IV シラバス(1年)

#### IV シラバス(1年)

開講年次	1年次 前期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	心の理解と共有 (Introductory Psychology)					ナンバリング	N-PS41	科目分類	基礎分野
担当教員	菅沼 憲治								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 自分とは何かというように、その存在を確信出来るが、客観的に捉えることは困難な「こころ」を科学的に解明しようとする科目である。心の理解について様々な心理的現象を実証科学的に探求する試みがなされてきたが、本講義では、基礎心理学に基づき個々の学修・記憶・動機づけ、感覚・知覚、思考・言語等を通して、心理学の切り口で理解を深める。									
<b>授業目標：</b> 1. 心理学的な観点からの研究対象、研究方法を理解できる。 2. 外部からの刺激を取り入れる過程から、実際の行動までの過程についての心理学的な見解や考え方を理解できる。 3. 授業目標1と2をふまえることにより自己理解・他者理解を多面的に行えるようになる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	心理学とは—こころの捉え方、研究対象 人間のリズム					事前：シラバスの確認 事後：テキストの導入を精読		講義	菅沼 憲治
2	パーソナリティ1 パーソナリティの定義とパーソナリティ理論 類型論と特性論					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
3	パーソナリティ2 パーソナリティ検査					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
4	学習1 学習の理論1 (1) 古典的条件付け (2) 道具的条件付け (3) 技能学習					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
5	学習2 学習の理論2 (4) 社会的学習 (5) 練習					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
6	記憶 記憶の過程と忘却					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
7	発達1 発達のプロセスと発達の研究法					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
8	発達2 発達の理論					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
9	発達3 発達段階の理解1 胎児期 乳児期における感覚・知覚の 発達と愛着					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
10	発達4 発達段階の理解2 幼児期 第一次反抗期 幼児期の知覚 言語のメカニズム					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
11	発達段階の理解3 児童期 自己理解と集団理解					事前：テキストの該当箇所の予習 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
12	発達段階の理解4 青年期 第二次反抗期とアイデンティティの確立					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
13	発達段階の理解5 成人期 社会生活としての結婚と家族 生活習慣と疾患					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
14	発達段階の理解6 老年期 agingによる身体的・認知的変化および 老性自覚 死の問題					事前：テキストの該当箇所の精読 事後：テキストの該当箇所の精読		講義	菅沼 憲治
15	欲求・動機の理論 マズローをはじめとして					事前：講義全体の復習 事後：なし		講義	菅沼 憲治
<b>教本：</b> 1. 系統看護学講座基礎分野 心理学 医学書院					<b>参考文献：</b> 講義中に随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加態度等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 各講義で指定されたページを予習していることを前提として講義をおこなう。指定ページは講義内で指示する。									

開 講 年 次	1 年次 前期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	ストレスマネジメント (Stress management)					ナンバリング	N-PS91	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	丸山昭子・小野坂益成								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 現代社会はストレス社会といわれている。人は、特に学校や職場、地域など集団の中でストレスを感じ、ストレスが強すぎるとストレス関連疾患や不適応を生じる。しかし、人は元々ストレスに対処しようとする力を備えている。そこで、本授業ではストレスによる心身への影響を知識として学んだ上で、ストレスを調整し管理する方法を、環境と個人に分け、具体的な介入方法を交えて、ストレスへの対処方略について学習する。									
<b>授業目標：</b> 1. 集団におけるストレスとその影響を述べることができる。 2. ストレスを緩和する環境調整について説明できる。 3. ストレスに対するコーピング方法を述べることができる。 4. ストレスを緩和する具体的なスキルを体験し、効果を実感できる。									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)					授 業 形 態	担 当	
1	オリエンテーション 現代社会の特徴とストレス	事前：ストレスの定義について説明できるように準備する。 事後：復習課題の作成					講義	丸山 小野坂	
2	ストレスの原因と危機	事前：自分自身のストレスの原因について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
3	ストレスと健康との関連 ー精神的・身体的ストレス反応ー	事前：自分自身の起こしやすい精神的・身体的ストレスの反応について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
4	ストレスマネジメントの方法 ー環境の調整ー	事前：ストレスを起こしやすい環境について説明できるように準備し、グループワークに臨む。 事後：復習課題の作成。小テスト①の準備					講義・ グループワーク		
5	<小テスト①> ストレスマネジメントⅠ ー個人による調整：ストレスコーピングー	事前：自分自身のストレスを緩和するための行動について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
6	ストレスマネジメントⅡ ーホリスティックケアー	事前：ホリスティックケアについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
7	自分のストレス特性Ⅰ ー自己効力感・レジリエンスー	事前：自己効力感とレジリエンスについて説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
8	自分のストレス特性Ⅱ ー社会的興味と外向性ー	事前：社会的興味と外向性について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
9	自分のストレス特性Ⅲ ー楽観主義と完璧主義ー	事前：楽観主義と完璧主義について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成。小テスト②の準備					講義		
10	<小テスト②> ストレスへの対処方略Ⅰ ーリラクゼーション (アロマ他)ー	事前：自分自身のこれまでのリラクゼーション方法について振り返り、説明できるように準備する。 事後：復習課題の作成					講義		
11	ストレスへの対処方略Ⅱ ーリラクゼーション (呼吸法他)ー	事前：リラックスするための呼吸法について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
12	ストレスへの対処方略Ⅲ ー自分のストレス特性への対処ー	事前：自分自身のストレス特性について説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成					講義		
13	ストレスへの対処方略Ⅳ ーアサーショントレーニングー	事前：自分自身のコミュニケーションの傾向について振り返り、説明できるように準備し、授業に臨む。 事後：復習課題の作成。					講義		
14	家族への支援と多機関の連携・協働	事前：一般的な家族におけるストレスの原因について説明できるように準備して、授業に臨む。 事後：復習課題の作成。小テスト③の準備					講義		
15	<小テスト③> メンタルヘルス向上のための法律 や制度ー動向と対策ー まとめ	事前：これまでの講義資料を概見し、不明な点や疑問点を確認して、まとめの授業に臨む。 事後：これまでの講義資料、小テスト①～③を見直し、定期試験に備える					講義		
<b>教本：</b> プリントを配布する。		<b>参考文献：</b> ストレス・マネジメント入門 自己診断と対処法を学ぶ 第2版 中野敬子 金剛出版							
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等 (10%)、小テスト・復習課題等 (20%)、定期試験 (70%) で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目 (レポート等) についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> ストレスは、人を成長させる側面もあります。ストレスと上手く付き合えるように、あなた自身のストレスと効果的な対処方法を、授業を通して学びましょう。									

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護のための倫理学 (Bioethics)					ナンバリング	N-PH21	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>最近半世紀において、技術知が生命科学と医療の分野で急激な発展を見せている。これらの進歩は我々の予想を超える事態をもたらした。我々が生命に関わる決断を下すにあたり、もはや常識や既成の倫理が満足のゆく解決策を示してくれるとは限らない。そこで本講では、応用倫理学の一部門である生命倫理学のテーマを取り上げ、人間の生・死をめぐる諸相について考察を深めたい。今年度は特に安楽死・尊厳死・医療拒否・脳死・臓器移植といった問題群を俎上に載せる。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 生命倫理に関する基本的な知識を身につける。 2. 医療・生命をめぐる倫理的なテーマについて、自己の見解を確立する。</p>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	生命倫理学と医事法学：患者の権利と医療者の保護					事前：特になし。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
2	安楽死と〈自己決定権〉①：安楽死の態様					事前：教本の該当頁を読む。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
3	安楽死と〈自己決定権〉②：ICと説明義務範囲					事前：教本の該当頁を読む。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
4	尊厳死・医療拒否と〈自己決定権〉					事前：教本の該当頁を読む。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
5	脳死と臓器移植① 「脳死」という思想問題―生と死をどこで線引きするか					事前：教本の該当頁を読む。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
6	脳死と臓器移植② 臓器移植で何が議論になっているのか					事前：教本の該当頁を読む。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
7	脳死と臓器移植③ 暫定的考察と新しい局面					事前：教本の該当頁を読む。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
8	講義の総括と展望					事前：講義内容をまとめる。 事後：試験の準備をする。		講義	金澤 秀嗣
<p>教本：</p> <p>黒崎剛・吉川栄省編著『生命倫理の教科書 何が問題なのか』第2版（ミネルヴァ書房 2022年 ¥3,000）。 加えて、毎講義時にレジュメ（プリント）を配布する。</p>						<p>参考文献：</p>			
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>定期試験（100%）で評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>私が提供するの（授業）ではなく（講義）です。履修者は主体的に臨むこと。</p>									

開 講 年 次	1年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	情報基礎 (Basic Course of Information Technologies)					ナンバリング	N-IN11	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	鈴木 秀顕								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<b>授業概要：</b> 学生生活において不可欠であるコンピュータおよびインターネットを活用する基本能力の育成を目標とし、コンピュータ利用の基礎となる技術を学ぶとともに、コンピュータ利用のマナーや情報倫理などを中心に講義を進める。今後、高度情報化社会へ進む上での第一歩を踏み出すための基本について、演習を通して学習する。									
<b>授業目標：</b> 1. タッチタイピング 2. コンピュータ利用のマナーや情報倫理の理解 3. コンピュータを用いた文書作成や表計算の利用スキル (MOSを中心に) 4. インターネット活用スキル 5. 学生生活・社会生活に必要なICTを活用するスキル									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	担 当
1	ガイダンス (コンピュータを学ぶこと)					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
2	インターネットと情報					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
3	情報倫理の必要性					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
4	プライバシーの侵害と名誉棄損					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
5	インターネット犯罪					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
6	情報社会で求められる素養・論文・レポートの書き方					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
7	ビジネス文書の書き方					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
8	ワード (入力、コピー、貼り付け)					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
9	ワード (フォント、ドキュメントの書式設定)					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
10	ワード (段落、箇条書き)					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
11	MosWord演習					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
12	エクセル (四則演算)					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
13	エクセル (ワークシートにデータを追加、移動、コピー)					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
14	MosExcel演習					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
15	MosWordExcel演習					事前：なし 事後：講義の復習・練習		講義・演習	鈴木
<b>教本：</b> 1. 『大学生のための情報処理演習』 (共立出版)					<b>参考文献：</b> 1. MosWord2013 (技術評論社) 2. MosExcel2013 (技術評論社)				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等 (30%)、タイピングテスト等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> タイピングスキルを身に付けるために、自習時間でのタイピング練習が必要になります。あきらめず頑張ってください。									

開 講 年 次	1 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (Elementary English)					ナ ン バ リ ン グ	N-LG11	科 目 分 類	基 礎 分 野
担 当 教 員	岡 部 佑 人 ・ 廣 本 和 枝								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>この講義では、コミュニケーション・イングリッシュの基礎を固めることを目的とする。具体的な要求や日常的な表現を理解し、運用することができるように反復練習する。また、英語の基本的な文法体系を確認する。具体的には、ペア・ワークやグループ・ワークを通して、学生に英語を使用する機会をできるだけ多く与え、英語に慣れさせる。同時に音声で習得した基本的な口語表現を、英語で書けるようにする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 身近な語彙の知識を増やし、発信に必要な文法が理解できる。  2. 日常生活における幅広いテーマの英文素材を「読んだり」「聞いたり」できることと、思ったことをシンプルな英語で「話したり」「書いたり」することができる。</p>									
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1	Introduction, Unit 1 : The Human Body					事前：なし 事後：授業の復習(30分)		講義	岡 部 佑 人 廣 本 和 枝
2	Unit 2 : Nutrition and Fitness					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
3	Unit 3 : Communicable Diseases					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
4	Unit 4 : Hygiene and Public Health					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
5	Unit 5 : Reforming Japanese Helathcare					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
6	Unit 6 : Needlestick Injuries in Medicine					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
7	Unit 7 : Dr. Kitasato and the Development of Medicine in Japan					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
8	Unit 8 : The Medical Laboratory Technologist					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
9	Unit 9 : Clinical Engineering					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
10	Unit 10 : Radiological Technology					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
11	Unit 11 : Physical Therapy					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
12	Unit 12 : Working in Occupational Therapy					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
13	Unit 13 : Speech-Language Therapy as a Vocation					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
14	Unit 14 : Orthoptics and Visual Science					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
15	Unit 15 : Why Is Team Treatment Necessary?					事前：テキストの精読(30分) 事後：授業の復習(30分)		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
<i>The Hospital Team</i> by Masashiro Takatsu <i>et al.</i> (南雲堂)					そのほかは随時提示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (40%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
英 語 に 触 れ る 機 会 を で き る だ け 多 く 持 つ よ う に 心 が け て く だ さ い。									

開 講 年 次	1年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	日本語表現法(現代文長文読解)(Presentation in Japanese Language)					ナンバリング	N-LG61	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	中村 龍一								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 学生の文章・言語による表現能力、すなわち作文力と会話能力との向上0を目的として、基礎国語力強化を図る。書くことと話すことの二つの課程を用意し、書くことでは説明文・意見文・短文・長文などさまざまなスタイルの作成を修得させ、テキストの読解と要約も併せて行う。話すことでは、スピーチディスカッション・聞くの両方について、その目的に合わせた取材・原稿作成・実演の全過程を実際に行わせる。演習形式により、受講生全員が読む・書く・話す・聞くの表現の諸形態を実践するとともに、クラスの他者の表現を読みかつ聞くことから学ぶようにする。									
<b>授業目標：</b> ・思索としての書くことを通して、国語表現力を高める ・書く力を書くことによって身につける ・看護師としての人間性を高める									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	・ガイダンス：書くことは、「私」を書くことである					事前：なし 事後：「自己紹介文」を書く		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
2	・ただ一つのことを書く（長い文章も短い文章も）					事前：復習 事後：「一番古い記憶」を書く		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
3	・「思いつき、裏づけ、訴え」の三段階					事前：「資料1」を読む 事後：復習		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
4	・「資料1」を読み込む					事前：復習 事後：課題を書いてくる		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
5	・句読点と修飾の順序					事前：「資料2」を読む 事後：復習		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
6	・「資料2」を読み込む					事前：復習 事後：課題を書いてくる		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
7	・文間文法という問題					事前：「資料3」を読む 事後：復習		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
8	・「資料3」を読み込む					事前：復習 事後：課題を書いてくる		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
9	・「私」とは誰か					事前：「資料4」を読む 事後：復習		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
10	・「資料4」を読み込む					事前：復習 事後：課題を書いてくる		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
11	・読者意識をもって書く					事前：「資料5」を読む 事後：復習		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
12	・「資料5」を読み込む					事前：復習 事後：課題を書いてくる		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
13	・目論見論（章立ての方法）					事前：復習 事後：復習		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
14	・前期試験課題を読み込む					事前：推敲 事後：目論見論を作る		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
15	・課題提出 ・まとめ					事前：推敲する 事後：		講義20分、合評40分、 資料読み込み30分	中村 龍一
<b>教本：</b> ・授業時に配布する					<b>参考文献：</b> ・授業時に指示する				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> レポート（30%）・合評時の態度（20%）・定期試験課題（50%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 復習をしっかりする。									

開講年次	1年次 前期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	身体の構造と機能A (Human Anatomy and Physiology A)					ナンバリング	N-MS11	科目分類	専門基礎分野
担当教員	垣内史堂・吉井信哉								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>人体を構成する諸器官の正常な形態を系統立てて理解し、健康、疾病、障害に関する観察力、判断力を強化するための科目である。人体は器官群の精巧な配列（器官系）の組み合わせにより成り立っている。これを学ぶ学問を系統解剖学という。骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系等の各系統に分けられる。各系統について総論的に学習し、人体の構造に関する基礎的知識を習得する。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の骨格の位置及び名称が説明できる</li> <li>2. 呼吸器系の構造と機能及び呼吸運動、血液ガス交換などの機序が説明できる</li> <li>3. 消化器系の構造及び各分泌腺の機能、吸収、排便などの機序が説明できる</li> <li>4. 心臓の構造・位置及び動脈血管・静脈血管・リンパ管の走行及び差異が説明できる</li> <li>5. 心臓と神経・ホルモンとの関係、血圧、脈などの機序が説明できる</li> <li>6. 泌尿器系の構造及び糸球体・尿細管の機能、排尿などの機序が説明できる</li> <li>7. 人体の骨格、骨の連結、筋の構造と機能を説明できる</li> <li>8. 生殖器系の構造と受精、発生などが説明できる</li> <li>9. 老化の仕組みを説明できる</li> </ol>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	序章 人体の構造と機能 第1章 解剖生理学の基礎知識：A 形からみた人体					事前：教本1第1部 序章、第1章Aを読んでおく 事後：講義の復習、「からだの地図帳」と「書いて覚える解剖生理ワークブック」の該当箇所の解答		講義	垣内(吉井)
2	第1章 解剖生理学の基礎知識：B 素材からみた人体、(C 機能からみた人体)					事前：教本1第1部第1章B 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
3	2章 栄養の消化と吸収 -A 口・喉頭・食道の構造					事前：教本1第1部第2章A 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
4	2章 栄養の消化と吸収 -B 腹部消化管の構造					事前：教本1第1部第2章B 事後：同じ		演習	垣内(吉井)
5	2章 栄養の消化と吸収 -C 膵臓・肝臓・胆嚢の構造、D 腹膜					事前：教本1第1部第2章C 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
6	3章 呼吸と血液のはたらき -A 呼吸器の構造～呼吸器の構成、上・下気道					事前：教本1第1部第3章A 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
7	3章 呼吸と血液のはたらき -A 呼吸器の構造～肺、胸膜・縦隔					事前：教本1第1部第3章A 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
8	3章 呼吸と血液のはたらき -C 血液～血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板					事前：教本1第1部第3章C 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
9	3章 呼吸と血液のはたらき -C 血液～血漿タンパク質と赤血球沈降速度、凝固と繊維素溶解、血液型					事前：教本1第1部第3章C 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
10	4章 血液の循環とその調節 A 循環系の構成、B 心臓の構造①					事前：教本1第1部第4章A 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
11	4章 血液の循環とその調節 -B 心臓の構造②					事前：教本1第1部第4章B 事後：同じ		演習	垣内(吉井)
12	4章 血液の循環とその調節 -D 末梢循環系の構造 血管の構造、肺循環の血管					事前：教本1第1部第4章D 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
13	4章 血液の循環とその調節 D 末梢循環系の構造 体循環の動脈、体循環の静脈、F リンパとリンパ管					事前：教本1第1部第4章D、F 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
14	5章 体液の調節と尿の生成 血液の循環とその調節 A 腎臓～腎臓・糸球体の構造					事前：教本1第1部第5章A 事後：同じ		講義	垣内(吉井)
15	5章 体液の調節と尿の生成 A 腎臓～尿細管の構造、傍糸球体装置					事前：教本1第1部第5章A 事後：同じ		講義	垣内(吉井)

16	5章 体液の調節と尿の生成 A 腎臓〜クリアランス、腎臓から分泌される生理活性物質	事前：教本1第1部第5章A 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
17	5章 体液の調節と尿の生成 -B 排尿路、C 体液の調節①	事前：教本1第1部第5章B、C 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
18	5章 体液の調節と尿の生成 -C 体液の調節②	事前：教本1第1部第5章C 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
19	7章 身体の支持と運動 -A 骨格、B 骨の連結	事前：教本1第1部第7章A、B 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
20	7章 身体の支持と運動 -C 骨格筋	事前：教本1第1部第7章C 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
21	7章 身体の支持と運動 -D 体幹の骨格と筋	事前：教本1第1部第7章D 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
22	7章 身体の支持と運動 -E 上肢の骨格と筋	事前：教本1第1部第7章E 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
23	7章 身体の支持と運動 -F 下肢の骨格と筋	事前：教本1第1部第7章F 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
24	7章 身体の支持と運動 -G 頭頸部の骨格と筋	事前：教本1第1部第7章G 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
25	9章 身体機能の防御と適応 -A 皮膚の構造と機能	事前：教本1第1部第9章A 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
26	9章 身体機能の防御と適応 -B 生体の防御機構	事前：教本1第1部第9章B 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
27	10章 生殖・発生と老化の仕組み -A 男性生殖器	事前：教本1第1部第10章A 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
28	10章 生殖・発生と老化の仕組み -B 女性生殖器	事前：教本1第1部第10章B 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
29	10章 生殖・発生と老化の仕組み -C 受精と胎児の発生	事前：教本1第1部第10章C 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
30	10章 生殖・発生と老化の仕組み -D 成長と老化	事前：教本1第1部第10章D 事後：同じ	講義	垣内 (吉井)
<p>教本：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座「人体の構造と機能[1] 解剖生理学」 医学書院</li> <li>2. からだの地図帳 佐藤達夫 監修 講談社</li> <li>3. 書いて覚える解剖生理ワークブック 安谷屋均著 照林社</li> </ol> <p>参考文献：</p> <p>随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等は期末試験の受験のための必要条件とし、評価は含まない。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。</p>				
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>この科目は医療・看護のすべての基礎となり、医療の共通の言葉となります。1年次前期にきちんと理解することが重要です。授業内容の進むスピードも速く、初めて聞く専門用語や初めて見る漢字が頻出しますので、わからないことがあれば、すぐに質問してください。ここでつまずくと今後の科目すべてに影響が出ます。</p> <p>授業を1回欠席するとその分の内容を取り戻すのは困難になります。できる限り欠席はせず、毎回の授業を大切に、必ず講義の復習することを心がけ、テキストは読み込んでください。テキストを授業前に確実に数回読み、理解の困難なところはマーカーをつけ講義中によく聞く、それでも理解しにくいところは、質問し確実に理解していくことが望まれます。また、ノートを上手にとることも必要で学習を進めるうえでは不可欠な学習方法といえます。</p> <p>テキストやサブテキストを何回も何回も読むことは効果のある学習です。インターネット上の<a href="http://physiology1.org/">http://physiology1.org/</a>「一歩一歩学ぶ医学生理学」のサイトも活用するといでしょう。</p>				

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	身体の構造と機能 B (Human Anatomy and Physiology B)					ナンバリング	N-MS11	科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	吉井信哉・垣内史堂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> ①毎日の生活は、様々な人や環境との関わりを通して営まれており、生活の在り方がその人らしさを際立たせていく。生活者としての成長・発達の課題を理解することを通して生活を支援する看護の視点を学ぶ。 ②身体的・精神的側面から人間を理解するために必要な体の仕組み及び機能を学ぶ。これらは、全て看護実践において臨床推論の根拠として活用し、知識を統合して全人的にアセスメントするために活用されるものである。									
<b>授業目標：</b> 正常な人体の機能を系統的に学び、他の基礎医学や臨床医学を修学する基礎とする。 1. 脈の測定部位、心電図・脳波の測定とその波形などの名称等が説明できる 2. 呼吸の構造と肺活量、一秒率などが説明できる 3. 泌尿器の構造と尿量の変化、クリアランスなどが説明できる 4. 神経系の走行と脊髄反射や平衡感覚など脊髄神経と脳神経との関係を説明できる 5. 正常の組織像と顕微鏡下で観察し、その構造を説明できる 6. 骨格モデルで全身の骨格と関節の名称を説明できる 7. 骨格筋モデルによる各部位の名称や筋の収縮などを説明できる 8. 各内分泌腺の位置やホルモンの機能を説明できる 9. 消化器系の位置や消化運動・機能を説明できる 10. 各血球などの機能や体液との関係を説明できる 11. 体性感覚や特殊感覚の機能を説明できる									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	人体の構造と機能を学ぶために解剖生理学を学ぶための基礎知識					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
2	機能からみた人体（構造からみた人体、機能から見た人体、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
3	栄養の消化と吸収①（口・咽頭・食道の構造と機能、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
4	栄養の消化と吸収②（腹部消化管の構造と機能、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		演習	吉井 (垣内)
5	栄養の消化と吸収③（膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
6	呼吸と血液のはたらき①（呼吸：内呼吸、外呼吸、呼吸器と呼吸運動、呼吸気量、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
7	呼吸と血液のはたらき②（呼吸：ガス交換とガスの運搬、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
8	呼吸と血液のはたらき③（肺の循環と血流、呼吸運動の調節、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
9	呼吸と血液のはたらき④（呼吸器系の病態生理、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
10	血液の循環とその調節①（血圧、血液の循環、血圧・血流の調節、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
11	血液の循環とその調節②（血圧・血流の調節、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
12	血液の循環とその調節③（微小循環、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
13	血液の循環とその調節④（循環器系の病態と生理、リンパとリンパ管、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
14	体液の調節と尿の生成①（腎臓・糸球体・尿細管の構造と機能、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
15	体液の調節と尿の生成②（肺尿路、体液の調節、その他）					事前：教科書を読む 事後：なし		講義	吉井 (垣内)

16	内臓機能の調節①（自律神経による調節、内分泌系による調節、その他）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
17	内臓機能の調節②（全身の内分泌腺と内分泌細胞、ホルモン分泌調節、その他）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
18	からだの支持と運動①	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
19	からだの支持と運動②	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
20	からだの支持と運動③	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
21	からだの支持と運動④	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
22	情報の受容と処理①（神経系の構造と機能）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
23	情報の受容と処理②（神経系の構造と機能）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
24	情報の受容と処理③（神経系の構造と機能）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
25	情報の受容と処理④（脊髄と脳 脊髄神経と脳神経）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
26	情報の受容と処理⑤（脊髄と脳 脊髄神経と脳神経）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
27	情報の受容と処理⑥（脳の高次機能）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
28	情報の受容と処理⑦（眼の構造と視覚 耳の構造と聴覚・平衡覚）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
29	外部環境からの防御①（体温とその調節など）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)
30	外部環境からの防御②（体温とその調節など）	事前：教科書を読む 事後：なし	講義	吉井 (垣内)

教本：

1. 系統看護学講座「人体の構造と機能[1] 解剖生理学」 医学書院
2. からだの地図帳 佐藤達夫 監修 講談社
3. 書いて覚える解剖生理ワークブック 安谷屋均著 照林社

参考文献：

1. 入門人体解剖学 南江堂 藤田恒夫
2. ネットー 解剖学カラーリング テキスト 南江堂
3. わかりやすい解剖・生理学 新島迪夫 他 鳳山社
4. 解剖学カラーアトラス 第7版 Johannes W. Rohen(著)、横地 千似(著)、E. Lutjen-Drecoll(著)

成績評価の方法、評価基準：

- 出席時間・授業参加状況（授業態度を含む）、小テスト・レポート（レポートを提出することもある）、定期試験等で総合評価する。
- 授業中の私語、スマートフォン（私用での使用）、授業中の無断退席は禁止とする。

学生へのアドバイス：

この科目は医療・看護のすべての基礎となり、医療の共通の言葉となります。授業内容の進むスピードも速く、初めて聞く専門用語や初めて見る漢字が頻出しますので、わからないことがあれば、すぐに質問してください。ここでつまずくと今後の科目すべてに影響が出ます。授業、1回欠席をするとその分の内容を取り戻すのは困難になります。できる限り欠席はせず、毎回の授業を大切に、必ず講義の復習することを心がけ、教科書は読み込んでください。

インターネット上の<http://physiology1.org/>「一歩一歩学ぶ医学生理学」のサイトも活用すると知識が深まります。

開 講 年 次	1年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護のための生化学B (Biochemistry for Nursing Professionals B)					ナンバリング	N-MS51	科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	内田 哲也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 現在、医学と生化学の関連がますます密接になり、各医療専門職分野において生化学的知識が必須のものとなっている。そのため、この講義では、生体物質の構造と機能に関する断片的な解説ではなく、生命の全体像ならびに臨床医学を理解するための基礎知識が得られるようにわかりやすく展開し、科学的思考法、自然法則の理解の仕方について学修する。									
<b>授業目標：</b> 1. 看護を行うにあたって必須となる生化学的知識を身につける事を目標とする。 2. 3大栄養素である「糖質・脂質・タンパク質」の種類、生体における役割、およびそれぞれの代謝について理解する。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	生化学を学ぶための基礎知識：生体を作る元素			事前：教科書第1章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
2	糖質：糖質の種類と役割について			事前：教科書第2章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
3	脂質：脂質の種類と役割について			事前：教科書第3章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
4	タンパク質とアミノ酸：タンパク質の構造と分類			事前：教科書第4章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
5	核酸：核酸とは何か、核酸の構造と役割について			事前：教科書第5章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
6	水と無機質・血液と尿：血液の組成、尿の生成			事前：教科書第6・7章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
7	ホルモンと生理活性物質：「恒常性の維持」			事前：教科書第8章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
8	代謝概要：「代謝」総論			事前：教科書第9章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
9	糖質代謝：生体における糖質の消化と吸収			事前：教科書第12章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
10	脂質代謝：脂質の消化と吸収、脂肪酸の分解			事前：教科書第13章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
11	タンパク質代謝：タンパク質の消化と吸収			事前：教科書第14章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
12	酵素：酵素の触媒作用、酵素反応の阻害について			事前：教科書第10章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
13	ビタミンと補酵素：ビタミンの種類と生理作用			事前：教科書第11章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
14	代謝の異常・先天性代謝異常：骨粗鬆症、糖尿病			事前：教科書第17・19章を読んでおく 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
15	まとめ：臨床において必須となる化学的知識			事前：なし 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
<b>教本：</b> 系統看護学講座 専門基礎分野「生化学」三輪一智著 医学書院				<b>参考文献：</b> なし					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等 (25%)、小テスト・レポート等 (25%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目 (レポート等) についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 毎回の講義に先立って教科書の該当箇所を一読しておいて下さい。また、毎時間行う小テストに解答できなかった部分を中心に、必ず復習を行って下さい。 小テストの末尾に設けた「質問欄」に当日の講義内容で理解できなかった事柄について記入して下さい。次回の講義の始めに全員に対して解説を行い、周知をはかります。									
2020年、2021年度入学者科目名称			看護のための生化学						

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護のための生化学A (Biochemistry for Nursing Professionals A)					ナンバリング	N-MS51	科目分類	専門基礎分野
担 当 教 員	内田 哲也								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<b>授業概要：</b> 現在、医学と生化学の関連がますます密接になり、各医療専門職分野において生化学的知識が必須のものとなっている。この講義は、生化学を学ぶのに先立って必要となる化学および生物学に関連する基礎知識を習得することを目的としている。高校化学・生物学と当該生化学のギャップを埋めることが主な目的であるので、高校において化学および生物学を履修していない学生は勿論のこと、履修済みの学生に対しても多くの有用な情報・知識が提供される。									
<b>授業目標：</b> 1. 「看護のための生化学B」を学ぶのに先立って、生化学関連の基礎知識を身につける事を目標とする。 2. 生体を構成する物質の種類および構造・機能について理解する。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	高校化学の復習－1：周期表、元素、原子と分子			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
2	高校化学の復習－2：化学反応			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
3	高校化学の復習－3：酸と塩基			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
4	高校化学の復習－4：酸化と還元			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
5	高校化学の復習－5：有機物			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
6	高校化学の復習－6：無機物			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
7	高校化学の復習－7：物質の三態、気体・液体の性質			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
8	高校化学の復習－8：発エルゴン反応と吸エルゴン反応			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
9	高校生物の復習－1：水と生命			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
10	高校生物の復習－2：細胞とは			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
11	高校生物の復習－3：エネルギーと生物学的反応			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
12	高校生物の復習－4：細胞がエネルギーを得る仕組み			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
13	高校生物の復習－5：DNAと染色体			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
14	高校生物の復習－6：タンパク質の構造と機能			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
15	生化学の予習：「三大栄養素、五大栄養素、代謝」とは			事前：この講義に出席することが前提 事後：小テストに解答できなかった部分を重点的に復習する。			講義	内田 哲也	
<b>教本：</b> 講義の中で適宜資料を配付する				<b>参考文献：</b> 該当なし					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）の成績から総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 後半の必修科目である「看護のための生化学B」の講義の理解・習得を円滑に出来る様に行うイントロダクション的な講義であるので、選択講義となっているが、「看護のための生化学B」の履修予定者全員が履修されることを強くお勧めする。									
2020年、2021年度入学者科目名称			化学の基礎						

開 講 年 次	1年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	ライフステージと発達看護論 (Nursing across the Life Cycle)					ナンバリング	N-BN21	科目分類	専門分野
担 当 教 員	川畑貴美子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 人の一生は、生命の始まりから誕生、成長発達、成熟、穏やかに衰え、やがていつか死を迎える。看護は、このような人間のあらゆる段階において人々に関わり、よりその人らしく健康的な生活を送ることができるように援助するという役割を持っている。看護の対象である人間を発達論的立場から理解することを旨とし、胎児期・新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期という発達段階における身体的・精神的・社会的な特徴を学修する。									
<b>授業目標：</b> 1. 人間の生涯におけるライフステージについて、各期の特徴を、成長・発達・成熟・加齢による変化の視点から学習する。 2. 各ライフステージにおける健康上の課題の特徴と看護の特徴を理解する。									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	人間のライフステージとは、成長発達とは学生自身の自己紹介（1分間スピーチ）					事前：人間・ライフステージとは何かについて基礎知識を準備する。 事後：ワークブックの説明		講義	川畑
2	ライフステージの特徴と看護（成人前期）：青年期における特徴と発達課題と看護の特徴。「大人になるとは」について考える。					事前：成人期の特徴を理解できるように準備する。 事後：ワークブックの整理		講義 GW	川畑
3	ライフステージの特徴と看護（成人後期）：成人期における健康課題と看護の特徴。「大人であるとは」について考える。					事前：成人期の健康問題について理解できるように準備する。 事後：ワークブックの整理		講義 GW	川畑
4	ライフステージの特徴と看護（小児期）：小児看護の対象者（乳幼児・学童・思春期）の特徴、健康課題と看護の特徴					事前：小児の特徴を理解できるように準備する。 事後：ワークブックの整理		講義 GW	川畑
5	ライフステージの特徴と看護（老年）：老年期における身体的・精神的・社会的特徴（加齢に伴う変化）、健康問題と看護の特徴					事前：老年の特徴を理解できるように準備する。 事後：ワークブックの整理		講義 GW	川畑
6	ライフステージの特徴と看護（母性）：母性看護の対象の身体的・精神的・社会的特徴、健康問題と看護の特徴					事前：母性の特徴を理解できるように準備する。 事後：ワークブックの整理		講義 GW	川畑
7	ライフステージにおける看護の対象としての患者と家族、そして、人の死について考える。					事前：家族や人の死とは、どのようなことか準備して、ライフステージとの関連について準備する。 事後：ワークブックの整理		講義 GW	川畑
8	ライフステージと発達看護の総合的理解（まとめ）					事前：ワークブック 事後：課題提出		講義	川畑
<b>教本：</b> 特に指定しない。					<b>参考文献：</b> その他は随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（5%）、日々のレポート等（30%）、課題レポート（5%）定期試験（60%）等で総合的に評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 各専門分野における看護学を学ぶ動悸づけとなる大切な科目です。最初が肝心なので、しっかり学びましょう。									

開 講 年 次	1 年次 前期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護学原論 (Nursing basic principle)					ナンバリング	N-BN11	科目分類	専門分野
担 当 教 員	富田 幸江								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<b>授業概要：</b> 看護の変遷から看護の定義や看護の理論を理解し、看護の本質についての学修を深める。また、看護を考える枠組みとして、人間、健康、環境、看護の視点から看護の専門性と看護活動のあり方やヘルスケアチームにおける看護職者の役割について学修する。また、看護専門職者としてのキャリア形成についての学修を通して、看護学生としてのアイデンティティの確立を目指すこととする。さらに、看護の哲学・倫理をふまえたヒューマンケアの考え方から、対象との援助的関係の形成が看護活動の基盤となることや援助的関係を促進するための看護師の姿勢について理解を深める。									
<b>授業目標：</b> 1. 歴史、看護の定義および法的基盤について説明することができる。 2. 看護を考える枠組みとして、人間、健康、環境、看護の視点から看護の専門性について説明できる。 3. 看護の本質における看護活動のあり方やヘルスケアチームにおける看護職者の役割について、説明できる。 4. 看護の哲学・倫理をふまえたヒューマンケアの考え方と援助的関係の形成の意味について説明できる。 5. 対象と援助的関係を促進するための看護師の姿勢について説明できる。 6. 看護専門職者としてのキャリア形成の考え方を通じて、看護学生としてのアイデンティティの確立を図ることの意味について説明できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1	・看護の本質とは ・看護を支える制度／保健師助産師看護師法			事前：自分にとって看護とは何かを考え授業に臨む。 事後：課題レポートの提出			講義	富田	
2	・看護の変遷 ・看護の歴史／最初の看護教育			事前：看護の変遷、歴史について、説明できるようにして授業に臨む。 事後：課題レポートの提出			講義	富田	
3	・看護の定義 ・看護専門職者としてのあり方			事前：看護の定義について、説明できるようにして授業に臨む。 事後：課題レポートの提出			講義 小演習	富田	
4	・近代看護の先駆者による看護理論： ナイチンゲールとナイチンゲールの功績			事前：看護理論とは何か説明できるようにして授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義	富田	
5	・看護諸理論：/ヒューマンケア・ケアリング ペブロー、トラベルビー、オーランド			事前：前回、学習した看護理論について説明できるようにして授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義 小演習	富田	
6	・看護諸理論／ヘンダーソン、ウィーデンバック ・概念モデル／オレム、ロイ			事前：前回、学習した看護理論について説明できるようにして授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義	富田	
7	・看護の対象の理解／生活者としての対象①			事前：看護の対象を基本的欲求から説明できるようにして授業に臨む。 事後：課題レポートの提出			講義	富田	
8	・看護の対象の理解／生活者としての対象②			事前：看護の対象について全人的側面から説明できるようにして授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義 小演習	富田	
9	・看護の対象の理解／健康のとらえ方③			事前：健康の考え方について説明できるようにして学習して授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義	富田	
10	・看護の対象の理解／生涯発達しつづける存在 ライフサイクルと健康④			事前：発達課題とライフサイクルの関係について説明できるようにして授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義 小演習	富田	
11	・看護の提供のしくみ ・医療施設における看護活動			事前：看護における看護の提供の仕組みについて説明できるようにして授業に臨む。 事後：課題レポートの提出			講義	富田	
12	・福祉施設・地域における看護活動 ・チーム医療と看護活動の動向			事前：地域における看護活動のあり方についてテキストの精読し授業に臨む。 事後：課題レポート			講義	富田	
13	・看護専門職者としてのキャリア形成の考え方			事前：看護専門職として、自己のキャリア形成について考え授業に臨む。 事後：課題レポートの提出			講義 小演習	富田	
14	・看護学生として目指す看護師像と今後の課題 看護学生アイデンティティの確立			事前：看護学生としてのアイデンティティについて考え授業に臨む。 事後：課題レポートの提出			講義 小演習	富田	
15	・看護学生として目指す看護師像と今後の課題 看護学生アイデンティティの確立			事前：自分が目指す理想の看護師像について考え授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義 小演習	富田	
<b>教本：</b> 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 茂野香おる 医学書院					<b>参考文献：</b> 1. 厚生労働白書 厚生労働省 最新版 2. 看護学原論 南江堂 3. 「看護覚え書」 F. ナイチンゲール（日本語訳本） その他 随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加態度・小テスト・課題レポート（30%）、筆記試験（70%） なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 初めて看護の世界に触れる、第一歩となる授業です。客観的情報からみる看護の世界を概観しながら、これから看護をどう学んでいけばいいのか、自身の計画に役立ててください。授業中、積極的な発言を期待します。 課題の提出は、提出期限を守ること、提出が遅れた場合は減点対象となる。									

開 講 年 次	1 年 次 前 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	生活援助技術演習 I (Nursing Care Support I)					ナンバリング	N-BN41	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	藤井智恵子・牛島典子・奈良かな子・勅使河原俊子・西 法子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>看護技術の基本的概念の特徴を通して、看護技術の提供は人間の尊厳に基づく看護技術であることを学ぶ。さらに、看護の専門知識に基づき、対象者の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な看護技術の原理・原則を理解する。さらに、援助する際の看護師の姿勢として、倫理観に裏打ちされた態度を持って実施できるようにする。学習内容として、コミュニケーション技術、観察、バイタルサイン、感染予防としての衛生的な手洗い、ボディメカニクス、療養環境の整備、ベッドメイキング、体位変換、移送について学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の基本的概念の特徴を通して、看護技術の提供は人間の尊厳に基づく看護技術であることを説明することができる。</li> <li>2. 看護技術における共通基本的技術の考え方について説明することができる。</li> <li>3. 看護技術における共通基本的技術について、看護技術の原理・原則を踏まえて実施することができる。</li> <li>4. 援助する際の看護師の姿勢として倫理観に裏打ちされた態度を持って実施できる。</li> </ol> <p>&lt;看護活動の基盤となる看護技術&gt;</p> <p>コミュニケーション技術、観察、バイタルサイン、罨法、感染予防としての衛生的な手洗い、ガウンテクニク・処置用手袋の着脱、ボディメカニクス、療養環境の整備、ベッドメイキング、活動・休息（体位変換、移送）</p>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1	看護技術の目的と特徴 看護技術の特徴 看護技術が及ぼす人への影響 人間の尊厳に基づく技術 人を対象とした技術の特徴 倫理的配慮を伴った看護技術					事前：シラバスの内容確認 事後：テキスト「看護技術の目的と特徴」を熟読 倫理的配慮について学修する		講義	藤井
2	看護技術の定義 看護の専門職者の能力としての看護技術の修得 看護技術の原則である対象者の安全・安楽・自立を目指した技術の考え方 安全を守る技術、安楽を図る技術、自立を促進する技術					事前：テキスト「看護技術の定義」、「安全・安楽・自立」を熟読 事後：看護の専門職者の能力、看護技術の原則について学修する		講義	藤井
3	看護援助実施の際の説明と同意 援助の必要性和方法に関する説明 安心、安楽を考えたプライバシーへの配慮 相手の立場に立った尊重した姿勢 対象が安心できる声かけとねぎらい 羞恥心、露出への配慮					事前：テキスト「プライバシーへの配慮」を熟読 事後：看護援助実施の際の説明と同意について学修する		講義	藤井
4	看護におけるコミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションとは、コミュニケーションの構成要素 看護活動の基盤となるコミュニケーションの考え方 基本的ニードを把握するための観察の方法 バイタルサイン測定とは、バイタルサイン等の測定結果、コミュニケーションスキル、記録類（カルテ等）					事前：テキスト「コミュニケーションの意義と目的」、「基本的ニードを把握するための観察の方法」を熟読 事後：コミュニケーション、記録の書き方について学修する		講義	藤井
5・6	効率の良い援助を提供するためのボディメカニクスの活用 よい姿勢、良肢位、安定と重心、重心の活用 重心と支持基底面積、安定した作業姿勢、経済的な動線 基礎看護学実習室のオリエンテーション					事前：テキスト「ボディメカニクス」を熟読 事後：良肢位について学修する(課題)		講義	勅使河原 他
7・8	安全を守る感染予防の技術 衛生的な手洗い・アルコール製剤による擦式消毒 個人防護用具の着脱（ガウンテクニク・処置用エプロン、マスク、処置用手袋）					事前：基礎看護学実習室使用の手引きの熟読、感染予防の技術の課題学習 事後：衛生的な手洗いの技術練習		講義 デモンストレーション 演習	奈良 他
9・10 11・12	療養環境を整えるためのベッドメイキング 療養生活の環境と整備 寝具の素材選択のための条件 ベッドメイキングの方法					事前：ベッドメイキング、環境整備の課題学習 事後：ベッドメイキング、環境整備の技術練習		講義 デモンストレーション 演習	奈良 他

13・14	安全、安楽、自立を支える活動・休息、体位と体位変換 立位、座位、臥位（仰臥位、側臥位、腹臥位など）の技術 安全・安楽な体位変換の技術 安楽を提供するためのポジショニングの考え方と方法	事前：体位と体位変換の課題学習 事後：体位と体位変換の技術練習	講義 デモンストレーション 演習	勅使河原 他
15・16 17・18 19・20	療養環境を整えるためのベッドメイキング  技術試験 臥床患者の下シーツ交換	事前：臥床患者の下シーツ交換の課題 事後：臥床患者の下シーツ交換の技術 演習	講義 デモンストレーション 演習 技術試験	奈良 他
21・22 23・24 25・26	生命兆候を把握するためのバイタルサインの測定技術 体温・脈拍・呼吸・血圧測定（坐位、臥床）  技術試験 臥床患者のバイタルサインの測定	事前：バイタルサインの課題学習 事後：バイタルサイン測定の技術練習	講義 デモンストレーション 演習 技術試験	藤井 他
27・28	安楽を促進するための電法 温電法・冷電法	事前：電法の課題学習 事後：電法の事後学習	講義 デモンストレーション 演習	西 他
29・30	自立を促進するための移乗・移送 車椅子、ストレッチャーによる移動の方法 安楽な移動のためのスライディングボードの活用	事前：移乗・移送の課題学習 事後：車椅子移乗の事後課題	講義 デモンストレーション 演習	勅使河原 他

教本：

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 基礎看護学②、③ 医学書院

成績評価の方法、評価基準：

授業参加状況等（5%）、課題（15%）、技術試験（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。

なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（課題、技術試験等）についてもすべて評価しない。

学生へのアドバイス：

演習に向け事前に演習課題を配付するので、事前学習を行っていることを演習実施の前提とする。

この科目は、看護の基本となる内容であり、今後の看護技術の学びを方向付けるものでもある。よって、毎回の授業内容の理解を深めることはもちろん、課題や技術の予習、復習に真剣に取り組んでいただきたい。技術の予習・復習では、適切な技術の習得に向けて視聴覚教材なども活用していただきたい。課題の提出は、提出期限を必ず守ること。

開 講 年 次	1 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護のための哲学 (Introduction to Philosophy)					ナンバリング	N-PH22	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	金澤 秀嗣								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： 哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた、先人の知的営為を体系化した学である。その考察対象は多岐にわたるが、本講では特に社会哲学並びに法哲学の見地から〈自由〉と〈規範〉を主軸に据えつつ、以下の「授業計画」に記した諸理論を取り上げる。もって自己・他者・世界を批判的に捉え直す機会を提供したい。									
授業目標： 1. 西洋哲学における人間観・社会観に関する基礎的な知識を身につける。 2. 哲学的な問題提起のしかた・問題解決の方法について理解する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	自由と規範 概論： 西洋中世・近代哲学における自然法論の系譜をたどり。 各論で展開される人間・国家観を俯瞰する。					事前：特になし。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
2	神的自然法論① 原罪・〈事物の本性〉と人間の自由					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
3	神的自然法論② アウグスティヌスとトマス・アクィナスの自然法概念					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
4	契約説的自然法論 アトムの個人の権利と国家権力① ホプズ：〈リヴァイアサン〉はなぜ抵抗権を認めないか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
5	契約説的自然法論 アトムの個人の権利と国家権力② ロック、ルソー：市民的不服従の論理					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
6	カント理論哲学 認識の枠組： 〈世界〉はいかに在るか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
7	カント実践哲学 徳論と法論： 〈自己〉と〈他者〉はいかに在るべきか					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
8	ヘーゲル〈人倫〉の学① 「自然法論文」における近代自然法論批判1					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
9	ヘーゲル〈人倫〉の学② 「自然法論文」における近代自然法論批判2					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
10	ヘーゲル〈人倫〉の学③ 「自然法論文」における共同体論：〈真無限〉の立場					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
11	ヘーゲル〈人倫〉の学④ イエーナ精神哲学における相互承認論：〈愛〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
12	ヘーゲル〈人倫〉の学⑤ イエーナ精神哲学における相互承認論：〈闘争〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
13	ヘーゲル〈人倫〉の学⑥ 『精神現象学』における相互承認論：〈主人と奴隷の弁証法〉					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
14	ヘーゲル〈人倫〉の学⑦ 論理学と『法哲学綱要』の視座					事前：レジュメを熟読する。 事後：講義内容を復習する。		講義	金澤 秀嗣
15	ヘーゲル〈人倫〉の学⑧ 〈民族精神〉の概：歴史法学 vs. 哲学的法学 〈世界精神〉の概念：〈世界法廷〉としての世界史					事前：講義内容をまとめる。 事後：試験の準備をする。		講義	金澤 秀嗣
教本： 特に指定しない。毎講義時にレジュメを配布する。					参考文献： 岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）				
成績評価の方法、評価基準： 定期試験（100%）で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
学生へのアドバイス： 私が提供するのとは〈授業〉ではなく〈講義〉です。履修者は主体的に臨むこと。									

開 講 年 次	1 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義
授業科目(英文)	吉田松陰論 (The Philosophy of Yoshida Shoin)					ナンバリング	N-PH12	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	増田 裕彦								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 本学の教育理念である「知行合一」を実践した吉田松陰は、わずか三〇歳でこの世を去った。しかし、松下村塾において維新の芽を育て、多くの志士を世に送り出し、短くとも多くのことを成した松陰の生涯から、「知行合一」とは何か、「教育」とは何かを思考するとともに、本学で学ぶ意義と誇りを修得する。									
<b>授業目標：</b> 1. 吉田松陰の精神や教育について理解する。 2. 松下村塾から輩出した志士や明治期の指導者を確認する。 3. 基本的な幕末期の歴史を理解する。									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	ガイダンス 松蔭大学の建学精神と理念「知行合一」 ■毛利氏と厚木のかかわり					事前：教本P14～P29を読む 事後：ノートの確認		講義	増田 裕彦
2	1 思想家・吉田松陰とはどんなひとだったのか① ■松陰の生い立ち ■松陰が生きた時代の様相					事前：教本P14～P23を読む 事後：授業内容のまとめ		講義	増田 裕彦
3	2 看護の現場に生かす、松下村塾の人の育て方①					事前：教本P24～P35を読む 事後：授業内容のまとめ		講義	増田 裕彦
4	2 看護の現場に生かす、松下村塾の人の育て方②					事前：教本P36～P47を読む 事後：授業内容のまとめ		講義	増田 裕彦
5	2 看護の現場に生かす、松下村塾の人の育て方③					事前：教本P48～P61を読む 事後：授業内容のまとめ		講義	増田 裕彦
6	2 看護の現場に生かす、松下村塾の人の育て方④					事前：教本P62～P80を読む 事後：授業内容のまとめ		講義	増田 裕彦
7	3 看護師の心に響く松陰の名言20					事前：教本P82～P122を読む 事後：授業内容のまとめ		講義	増田 裕彦
8	吉田松陰と松下村塾の弟子たち					事前：教本P124～P141を読む 事後：プリント配布		講義	増田 裕彦
<b>教本：</b> 『看護師のための松陰流人材育成術』長谷川勤著・日本医療企画					<b>参考文献：</b> 『松陰と幕末・明治の志士たち』長谷川勤著・NHK出版 『留魂録』古川薫著・講談社学術文庫				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（40%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（30%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> レポート提出も大きな評価対象です。									

開 講 年 次	1 年次 後期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	看護英語 A (病院内会話) (Nursing English A)					ナンバリング	N-LG12	科 目 分 類	基 礎 分 野
担 当 教 員	岡部佑人・廣本和枝								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>当大学の地域的特長を踏まえ、外国人の患者対応も多く対応する機会も多い。また、看護の国際性を踏まえ英語による施設内での情報収集に役立てるように会話の基礎について実践を通して学修する。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 日常的に用いられる会話表現を英語で言えるようにすること。  2. 正しい文法の知識を身につけること。  3. 実際に発話することに挑戦すること。</p>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )				事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	担 当	
1	Introduction, Pre-Unit A-E : Meet Your Partner and others				事前：なし 事後：授業の復習 (30分)		講義	岡部 佑人 廣本 和枝	
2	Unit 1 : Hospital Departments				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
3	Unit 2 : Application Forms				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
4	Unit 3 : Parts of the Body				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
5	Unit 4 : Illnesses				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
6	Review : Units 1-4				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
7	Unit 5 : Daily Routine				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
8	Unit 6 : Hospital Objects				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
9	Unit 7 : Locations of Hospital Objects				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
10	Unit 8 : Hospital Directions and Instructions				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
11	Review : Units 5-8				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
12	Unit 9 : Directions (Outside the Hospital)				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
13	Unit 10 : Chatting with a Patient				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
14	Unit 11 : Taking a Medical History				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
15	Unit 12 : Hospital Procedures, Review				事前：テキストの予習 (30分) 事後：授業の復習 (30分)		講義		
教本：					参考文献：				
<i>Vital Signs</i> (Revised Edition) by Vivian Morooka / Terri Sugiura ホスピタル・イングリッシュ<改訂版> (南雲堂)									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加状況等 (40%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>英語に触れる機会をできるだけ多く持つように心がけてください。</p>									
2020年、2021年度入学者科目名称			看護英語 B (病院内会話)						

開 講 年 次	1 年次 後期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	看護のための社会学(Introduction to Sociology for Nurses)					ナンバリング	N-SO12	科目分類	基礎分野
担 当 教 員	深谷 野亜								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 社会学は、現代社会を幅広く理解していこうとする学問であり、日常的・具体的現実即して、社会と人間との関係を幅広い視野から理解しようとするものである。社会学を学ぶことは、これから生きていく上で極めて有効なツールとなりうる。本講義ではそうした社会学の見方を身につけることを主目的としている。そのため、一見難解とも受け取られる社会学の諸学説を、具体例を交えながら講義する。授業の前半では、社会科学の基本的な考え方について学習し、後半で各論として医療・看護領域の課題について考える。									
<b>授業目標：</b> 1. 看護は、社会の中で行われる営みであり、社会を構成する様々な人々との関係の中でなされる仕事であることを理解できる。 2. 現代社会における保健・医療の問題や動向・人々の関心を社会的視点でとらえることができることができる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	社会学とは何かⅠ 社会的存在としての自己 社会学の基本的な考え方である、社会的存在としての自己について学習する					事前：なし 事後：授業で考えたことをまとめる		講義	深谷 野亜
2	社会学とは何かⅡ 社会学的想像力 社会学の基本的な考え方である、社会学的想像力について考える					事前：次回配布資料を読み、わからない部分を調べる 事後：社会学的想像力について自分の言葉で説明する		講義	深谷 野亜
3	社会学の基礎理論 コント・デュルケイム・ウェーバー・マルクスの4人の社会学理論を中心に、社会学がなぜ誕生し、どう発展していったかを学習する					事前：次回配布資料を読み、わからない部分を調べる 事後：4人のうち、一人を取り上げ、まとめる		講義	深谷 野亜
4	「社会化」とは何か 社会の中でわれわれがどう育まれるかについて、「社会化」という視点から考えていく					事前：次回配布資料を読み、わからない部分を調べる 事後：課題レポート		講義	深谷 野亜
5	ジェンダーの社会化 社会学の基本的な考え方である社会化について、ジェンダーを取り上げ、具体的に考えていく					事前：ジェンダーについて何が問題になっているか調べる 事後：調べたものを中心にまとめる		講義	深谷 野亜
6	社会調査の理論と技法 社会学主要な理論を学習するとともに、観察法や統計を使った検証法について考えていく					事前：次回配布資料を読み、わからない部分を調べる 事後：社会調査における個人情報の取り扱いについて説明できるようにする		講義	深谷 野亜
7	家族の社会学Ⅰ 家族の多様化 現代社会の多様性について、シングルペアレントファミリー・晩婚化を中心に考えていく					事前：家族の多様性について、調べる 事後：授業で考えたことについてまとめる		講義	深谷 野亜
8	家族の社会学Ⅱ 少子化・高齢化 少子化社会の現状を理解するとともに、諸外国の少子化対策について学習していく					事前：少子化対策について調べる 事後：フランスの少子化対策を調べる		講義	深谷 野亜
9	家族の社会学Ⅲ 子どもの貧困 大きな社会問題となっている、相対的貧困状態で育つ子どもを取り巻く現状やどういった影響が指摘されているか学習する。					事前：子どもの貧困について調べる 事後：子ども食堂について調べる		講義	深谷 野亜
10	社会問題を考える 様々な社会問題の中から、人権や社会的養護などいくつかのテーマをとりあげ、学習する					事前：どんなことが社会問題となっているか調べる 事後：一つ選び、まとめる		講義	深谷 野亜
11	ストレス・病気と社会の関係性 社会がわれわれの寿命や健康に与える影響について考える					事前：次回配布資料を読み、わからない部分を調べる 事後：社会が寿命に与える影響についてまとめる。		講義	深谷 野亜
12	健康・病気の社会格差 社会が我々の健康に与える影響について考える					事前：次回配布資料を読み、わからない部分を調べる 事後：生活習慣病について、社会の影響から説明する		講義	深谷 野亜
13	医療化社会 医療的問題とされる領域の拡大を中心に学習する					事前：次回配布資料を読み、わからない部分を調べる 事後：授業で考えたことをまとめる		講義	深谷 野亜
14	保健医療の現代的变化 少子高齢化の急速な進行といった社会変化にともない、保健・医療がどう変化してきたについて学習する					事前：次回配布資料を読み、わからない部分を調べる 事後：戦後の主要死因の変化について、社会学的な考察をする		講義	深谷 野亜
15	まとめ					事前：今までの資料を読み返してみる 事後：社会学を受講したことで、自分の見方がどう変化したのかまとめる。		講義	深谷 野亜
<b>教本：</b> 作成した資料に従い授業を行う。					<b>参考文献：</b> 1. 社会学入門<新版> 有斐閣新書 ¥800 その他、授業中適宜紹介する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（10%）、小テスト・ミニレポート等（40%）、定期試験・レポート（50%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合（または期末レポート未提出者）は、成績評価対象外となる。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 基本的に指定のテキストに従って授業をすすめるが、事前に予習していることを前提に授業をすすめる。学んだことを日常生活に結びつけて考えるように心がけましょう。									

開講年次	1年次 後期	選択・必修	必修	単位数	1	時間数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	病態学総論 (Principles of Human Pathology)					ナンバリング	N-MS22	科目分類	専門基礎分野
担当教員	垣内 史堂								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 人体に起こる病的障害（疾病）の原因、成立過程、結果について把握し、刺激或いは障害に対する形態学的な変化、組織変化および機能的変化を理解するのが目的である。最近の放射線医学では種々の検査法によって病理学的所見を反映する画像を収集することが可能となり、病態学は画像の解釈が基本となる。具体的には、(1)病態学とは(2)代謝異常（変性、壊死、肥大、過形成、萎縮）(3)修復と再生（再生、化生、創傷治療、異物処理）(4)循環障がい（充血、うっ血、虚血、出血、血栓、塞栓、梗塞）(5)炎症（免疫、アレルギー、感染症）(6)腫瘍（定義、分類、診断、小児の腫瘍）等について学ぶ。									
<b>授業目標：</b> 1. 各疾患に共通する病因と発症機序を理解し、基本病態の概念を理解して固有の用語を説明できる 2. 臓器・組織別疾患の病態生理、症状について説明できる。 3. 代謝性疾患、内分泌疾患、免疫性疾患、循環器疾患、炎症の全身疾患の病態生理、症状について説明できる。 4. 腫瘍性疾患の病態生理、症状について説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当	
1	病理学で学ぶこと、細胞組織の損傷と修復、炎症(1) 脂肪組織の損傷と適応				事前：教本 第1章、第2章Aを読んでおく 事後：プリントを含めて復習		講義	垣内 史堂	
2	細胞組織の損傷と修復、炎症(2) 脂肪組織の損傷に対する反応としての炎症、炎症の分類と治療				事前：教本 第2章B、Cを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
3	免疫、移植と再生医療(1) 免疫と免疫不全、アレルギーと自己免疫疾患(1)				事前：教本 第3章A、Bを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
4	免疫、移植と再生医療(2) アレルギーと自己免疫疾患(2)、移植と再生医療				事前：教本 第3章B、Cを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
5	感染症(1) 感染の成立と感染症の発病				事前：教本 第4章Aを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
6	感染症(2) おもな感染症、感染症の治療・予防				事前：教本 第4章B、Cを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
7	循環障害(1) 循環系の概要、浮腫、充血とうっ血、出血と止血、血栓症、塞栓症				事前：教本 第5章A～Fを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
8	循環障害(2) 虚血と梗塞、側副循環による障害、高血圧症、播種性血管内凝固症候群、ショックと臓器不全				事前：教本 第5章G～Kを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
9	代謝障害(1) 脂質代謝障害、タンパク質代謝障害				事前：教本 第6章A、Bを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
10	代謝障害(2) 糖質代謝障害、その他の代謝障害				事前：教本 第6章C、Dを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
11	老化と死 個体の老化と老年症候群、老化のメカニズムと細胞・組織・臓器の変化				事前：教本 第7章A～Cを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
12	先天異常と遺伝性疾患 遺伝の生物学、先天異常 遺伝子の異常と疾患、先天異常・遺伝性疾患の診断と治療				事前：教本 第8章A～Dを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
13	腫瘍(1) 腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりや影響				事前：教本 第9章A、Bを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
14	腫瘍(2) 腫瘍発生の病理、腫瘍の診断と治療				事前：教本 第9章C、Dを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
15	生活習慣と環境因子による生体の障害 生活習慣による生体の障害、放射線による生体の障害、中毒				事前：教本 第10章A～Cを読んでおく 事後：同じ		講義	垣内 史堂	
<b>教本：</b> 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学（第1部総論部分）、大橋健一、谷澤徹、藤原正親、柴原純二 著、医学書院					<b>参考文献：</b> 1. 臨床病態学総論第2版、北村聖 編著、ヌーヴェルヒロカワ 2. 看護のための臨床病態学、浅野嘉延、吉山直樹 編著、南山堂 その他、随時提示する。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 出席時間・授業参加状況等は定期試験受験のための必要条件とし、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> この授業科目の内容は、1年生にとってはレベルが高く易しくはないと思います。しかし、病態学総論はそれぞれの疾病内容を理解する上で欠かせないものであり、チーム医療に対応できる質の高い看護を提供するために、人体の正常機能とその異常を理解しておくことは重要です。教科書にあらかじめ目を通しておくなど、毎回予習復習をするように心がけ、授業内容の理解に努めて下さい。うまく理解できないところは積極的に質問し、理解しておくことが肝要です。									

開 講 年 次	1 年次 後期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	60	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	健康障害 A (Health Disorders A)					ナンバリング	N-MS22	科 目 分 類	専 門 基 礎 分 野
担 当 教 員	吉井信哉・垣内史堂								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>看護に必要な病態の特性について理解する。各疾病の病態生理とその結果出現する症状や検査方法並びに所見と出現する症状などに対する治療方法を理解する。</p> <p>①中枢神経系の疾患（脳血管系循環障害、頭蓋内圧亢進に伴う症状、神経変性・脱骨髄性疾患・認知症、中枢神経の感染症、頭部外傷）  ②末梢神経の疾患（ギランバレー症候群、視覚障害、聴覚・平衡覚の障害、嗅覚と味覚障害、皮膚の障害など）  ③消化器系（口腔、食道、胃、肝、胆、膵、小腸、大腸、直腸など）の疾患  ④内分泌系（下垂体、甲状腺など）の疾患  ⑤腎・泌尿器系の疾患（水と電解質の異常及び酸塩基平衡の異常など）  以上について、各メカニズム、検査、症状および治療の学習をする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. すでに学んだ人体の構造と機能（解剖・生理）を想起できる。  2. 成人期、老年期における主な疾患の検査・診断、治療について説明できる。  3. 中枢神経系疾患の、主な疾患の検査・診断、治療について説明できる。  4. 末梢神経の疾患の、主な疾患の検査・診断、治療について説明できる。  5. 消化器系疾患の、主な疾患の検査・診断、治療について説明できる。  6. 内分泌系疾患の、主な疾患の検査・診断、治療について説明できる。  7. 腎・泌尿器系の疾患の、主な疾患の検査・診断、治療について説明できる。</p>									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	担 当
1	内科的療法の概論（内科療法とは）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
2	外科的療法の概論（外科療法とは）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
3	中枢神経系の疾患①（脳疾患：脳血管障害、その他）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
4	中枢神経系の疾患②（脳疾患：脳血管障害、その他）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
5	中枢神経系の疾患③（脳疾患：脳血管障害、その他）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
6	中枢神経系の疾患④（脳疾患：脳腫瘍、その他）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
7	中枢神経系の疾患④（脳疾患：脳の感染症、頭部外傷、その他）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
8	中枢神経系の疾患④（脳疾患：脳の感染症、頭部外傷、その他）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
9	加齢と神経疾患（認知症、アルツハイマー病、脳血管疾患など）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
10	加齢と神経疾患（パーキンソン病、中枢性変性疾患、など）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
11	中枢神経系の疾患①（脳疾患：まとめ）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
12	末梢神経の疾患①（脊髄疾患：脊髄血管障害、脊髄炎・その他）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
13	末梢神経の疾患②（脊髄疾患：脊髄腫瘍・その他）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
14	末梢神経の疾患③（末梢神経障害：ニューロパチー・その他）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)
15	末梢神経の疾患④（神経・筋疾患：重力筋無力症・その他）					事前：教科書の精読 事後：なし		講義	吉井 (垣内)

16	消化器系の疾患①(食道の疾患:食道がん、食道アラクシア、胃食道逆流症・その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
17	消化器系の疾患②(胃・十二指腸疾患:機能性ディスペプシア、胃炎、慢性胃炎、その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
18	消化器系の疾患③(胃・十二指腸疾患:胃潰瘍、胃がん、その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
19	消化器系の疾患④(腸および腹膜疾患:過敏性大腸症候群、腸炎、クローン病、潰瘍性大腸炎、腸結核、その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
20	消化器系の疾患⑤(腸および腹膜疾患:腹膜炎急性虫垂炎、ヘルニア、イレウス、憩室炎、その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
21	消化器系の疾患⑥(肝臓・胆嚢の疾患:肝炎、門脈圧亢進症、肝がん、胆石、膵臓がん、その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
22	内分泌系(下垂体、甲状腺など)の疾患①(内分泌疾患:視床下部-下垂体前葉系疾患、視床下部-下垂体後葉系疾患、その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
23	内分泌系(下垂体、甲状腺など)の疾患②(甲状腺疾患、その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
24	内分泌系(下垂体、甲状腺など)の疾患③(副甲状腺疾患、その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
25	内分泌系(下垂体、甲状腺など)の疾患④(副腎疾患、睪・償還神経内分泌腫瘍、その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
26	内分泌系(下垂体、甲状腺など)の疾患⑤(代謝疾患:糖尿病、脂質代謝異常、尿酸代謝異常、その他)	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
27	腎・泌尿器系の疾患(水と電解質の異常など)①	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
28	腎・泌尿器系の疾患(水と電解質の異常など)②	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
29	腎・泌尿器系の疾患(酸塩基平衡の異常など)③	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)
30	腎・泌尿器系の疾患(酸塩基平衡の異常など)④	事前:教科書の精読 事後:なし	講義	吉井 (垣内)

教本:

系統別看護学講座 成人看護学 [5]消化器、[6]内分泌・代謝、[7]脳・神経、[8]腎・泌尿器、医学書院

参考文献:

随時提示する。

成績評価の方法、評価基準:

- 出席・授業参加状況(授業態度)等・小テスト、レポート・定期試験等で総合評価する。
  - 試験についての詳細は、授業中に説明します。試験は一夜漬けの勉強では対応が出来ませんので毎日の積み重ね、暗記ではなく理解することが大切です。
- \*講義中の私語については例え小声であっても他の学生の学習する権利を著しく侵害し迷惑となります。出席時間、並び授業参加状況、成績評価に含めません。
- なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目(レポート等)についてもすべて評価しない。

学生へのアドバイス:

患者の個々の持っている疾病について理解し患者と接しなければ、よい看護や医療を提供することは出来ません。本授業は疾病の基礎を学ぶことにより看護・医療の基本となります。一つ一つの疾患について深く知ることも必要ですが、多くの疾患を限られた時間で学ばなければならず、系統立てて理解し、病態を把握することが必要です。そのためには時に解剖学や生理学の教科書を振り返り学習すると理解が深まります。

この分野においても、初めて聞く専門用語や初めて見る漢字が頻出しますので、わからないことがあれば、すぐに質問してください。苦手な領域を作らず。授業、1回欠席をするとその分の内容を取り戻すのは困難になります。できる限り欠席はせず、必ず講義の復習することを心がけ、教科書は読み込んでください。携帯電話やスマートフォンの使用は授業使用禁止とします。授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切るかマナーモードにしておいてください。

開講年次	1年次 後期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	健康障害B (Health Disorders B)					ナンバリング	N-MS22	科目分類	専門基礎分野
担当教員	垣内史堂・吉井信哉								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 看護に必要な病態の特性について理解する。「健康障害B」では下記の疾患群について学修する。 ①呼吸器系疾患（呼吸不全、呼吸器感染症、閉塞性・拘束性肺疾患、肺循環障害、気胸、等） ②循環器系疾患（心不全、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性心疾患、動脈疾患、静脈疾患、控減症候群、血圧異常、ショック、チアノーゼ等） ③血液・造血管疾患（貧血、白血球減少症、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患等） ④免疫系機能の障害（自己免疫疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症等） ⑤感染症（主なウイルス感染症、主な細菌感染症、主なマイコプラズマ、クラミジア、リケッチア感染症、主な真菌感染症、寄生虫症、医療関連感染、日和見感染、敗血症等） ⑥婦人科疾患									
授業目標： 1. 呼吸器系疾患の病態生理、症状、検査、治療について説明できる。 2. 循環器系疾患の病態生理、症状、検査、治療について説明できる。 3. 造血管の疾患の病態生理、症状、検査、治療について説明できる。 4. アレルギー性疾患の病態生理、症状、検査、治療について説明できる。 5. 免疫機能の障害及び膠原病の病態生理、症状、検査、治療について説明できる。 6. 感染症の病態生理、症状、検査、治療について説明できる。 7. 女性生殖器系疾患（婦人科疾患）の病態生理、症状、検査、治療について説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担当
1	呼吸器疾患 I. 呼吸器の構造と機能					事前：教本1第2章 p20～39 事後：ノートの記録をしながら講義内容を確認する		演習	垣内 (吉井)
2	呼吸器疾患 II. 症状とその病態生理					事前：教本1第3章 p42～68 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
3	呼吸器疾患 III. 検査と治療・処置(1)					事前：教本1第4章 p70～109 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
4	呼吸器疾患 IV. 検査と治療・処置(2)					事前：教本1第4章 p109～136 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
5	呼吸器疾患 V. 疾患の理解(1) 感染症、間質性肺疾患					事前：教本1第5章 p138～176 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
6	呼吸器疾患 VI. 疾患の理解(2) 気道疾患、呼吸不全、肺循環疾患、呼吸調節に関する疾患					事前：教本1第5章 p176～199 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
7	呼吸器疾患 VII. 疾患の理解(2) 肺腫瘍、肺・肺血管の形成異常、胸膜・縦隔・横隔膜の疾患、肺移植、胸部外傷					事前：教本1第5章 p199～224 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
8	循環器疾患 I. 循環器の構造と機能、症状とその病態生理					事前：教本2第3章 p16～46 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
9	循環器疾患 II. 検査と治療(1)					事前：教本2第4章 p48～83 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
10	循環器疾患 III. 検査と治療(2)					事前：教本2第5章 p83～120 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
11	循環器疾患 IV. 疾患の理解(1) 虚血性心疾患					事前：教本2第5章 p122～151 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
12	循環器疾患 V. 疾患の理解(2) 心不全、血圧異常					事前：教本2第5章 p152～175 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
13	循環器疾患 VI. 疾患の理解(3) 不整脈、弁膜症					事前：教本2第3章 p175～207 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
14	循環器疾患 VII. 疾患の理解(4) 心筋疾患、先天性心疾患、静脈系疾患、リンパ系疾患、他					事前：教本2第3章 p207～235 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)
15	血液・造血管疾患 I. 血液の生理と造血の仕組み 検査・診断と症候・病態生理(1)					事前：教本3第2、3章 p18～41 事後：同じ		演習	垣内 (吉井)

16	血液・造血器疾患 II. 検査・診断と症候・病態生理(2) 疾患と治療の理解① 赤血球系の異常、白血球系の異常	事前：教本3第3、4章 p42～51、p54～74 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
17	血液・造血器疾患 III. 疾患と治療の理解②、造血器腫瘍(1)	事前：教本3第4章 p74～104 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
18	血液・造血器疾患 IV. 疾患と治療の理解③、造血器腫瘍(2)、出血性疾患	事前：教本3第4章 p104～143 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
19	アレルギー I. 免疫のしくみとアレルギー	事前：教本4 アレルギー 第2章 p16～29 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
20	アレルギー II. 診断・検査と治療	事前：教本4 アレルギー 第3章 p32～38 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
21	アレルギー III. 症状と疾患の理解 気管支喘息、アレルギー性鼻炎、など	事前：教本4 アレルギー 第4章 p40～56 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
22	膠原病 I. 自己免疫疾患とその機序、症状とその病態生理	事前：教本4 膠原病 第2、3章 p122～128、 p130～134 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
23	膠原病 II. 検査と治療、疾患の理解(1) 関節リュウマチ、全身性エリ テマトーデス	事前：教本4 膠原病 第4、5章 p136～148、 p150～160 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
24	膠原病 III. 疾患の理解(2) 抗リン脂質症候群、シェーグレン症候群、 全身性強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、混合性結合組織病、ペ ーチェット病、リュウマチ性多発筋痛症、成人発症ステイル病、 血管炎症候群他	事前：教本4 膠原病 第5章 p161～176 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
25	感染症 I. 感染症とは 感染症の検査・診断(1)	事前：教本4 感染症 第2、3章 p234～250、 p252～258 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
26	感染症 II. 感染症の検査・診断(2)、感染症の治療(1)	事前：教本4 感染症 第3章 p259～268、 第4章 p270～281 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
27	感染症 III. 感染症の治療(2) IV. 疾患の理解(1) 発熱・不明熱、上気道感染症、下気道感染 症、心血管系感染症、消化管感染症	事前：教本4 感染症 第4章 p282～284、 第5章 p286～296 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
28	感染症 IV. 疾患の理解(2) 肝胆道系感染症、尿路感染症、性感染症、皮 膚軟部組織感染症、眼・中枢神経感染症、敗血症、他	事前：教本4 感染症 第5章 p297～321 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
29	感染症 V. 疾患の理解(3) 真菌感染症、寄生虫感染症	事前：教本4 感染症 第5章 p322～333 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
30	後天性免疫不全症候群(エイズ他)、 新興・再興感染症、多剤耐性菌感染症	事前：教本4 感染症 第5章 p333～340 事後：同じ	演習	垣内 (吉井)
31	婦人科疾患I	事前： 事後：	演習	福田
32	婦人科疾患II	事前： 事後：	演習	福田
33	婦人科疾患III	事前： 事後：	演習	福田

教本：

1. 系統看護学講座 専門分野II「成人看護学」[2] 呼吸器、医学書院 2019年版
2. 系統看護学講座 専門分野II「成人看護学」[3] 循環器、医学書院 2019年版
3. 系統看護学講座 専門分野II「成人看護学」[4] 血液・造血器、医学書院 2019年版
4. 系統看護学講座 専門分野II「成人看護学」[11] アレルギー 膠原病 感染症、医学書院 2020年版
5. 系統看護学講座 専門分野II「成人看護学」[9] 女性生殖器 医学書院

参考文献：

随時提示する。

成績評価の方法、評価基準：

授業参加状況等は期末試験受験の必要条件とする。

小テスト・レポート等(20%、定期試験(80%)等で総合評価する。

なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目(レポート等)についてもすべて評価しない。

学生へのアドバイス：

ここで取り上げる疾患を患う人が、どんな状態にあり、どのような苦痛があって、どんな治療を受けるのか、概略を学びます。なれない専門的な用語が次々に出てきます。いきなり聞いても戸惑うばかりで授業について行くことも困難になります。あらかじめ教科書の該当部分を読んでおくことが必要です。その上で授業に参加し、さらに復習することが重要です。教科書を暗記するくらいに繰り返し熟読することを薦めます。

開 講 年 次	1 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	15	授業形態	講義	
授業科目(英文)	看護のための栄養学(治療食を含む)(Nutrition for Nursing Professionals)					ナンバリング	N-MS42	科目分類	専門基礎分野	
担 当 教 員	山口 恭子									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<b>授業概要：</b> 食物に含まれる各栄養素と人体を構成する物質との関係が解明され、健康な生体機能の維持に栄養がいかに重要であるかが認識されている。まず、看護専門職者として必要な栄養の基礎的知識(食物と各栄養素の意義、食生態学、食物の摂取と消化吸収、エネルギー代謝、日本人の栄養所要量、栄養の現況、疾患と栄養の関係等)について理解を深め、生活習慣病との関連で、健康なライフステージを歩むための栄養指導の考え方と手法について学修する。食は文化といわれるように楽しみの中で栄養が取れる摂取方法の工夫や嗜好についても考察する。また、病人の治療食を中心に栄養サポートチーム(NST)のあり方についても言及する。										
<b>授業目標：</b> 1. 食物に含まれている各栄養素と、人間を構成する物質との関係を理解できる。 2. 看護者として必要な栄養の基礎的知識について理解できる。 3. 疾患別食事指導の実際について、栄養指導の考え方と手法、栄養サポートチーム(NST)のあり方がわかる。 4. 患者の嗜好や楽しみを考慮し、QOLを高める治療食のあり方を知る。										
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)	事前・事後学習(学習課題)					授業形態	担 当		
1	人間栄養学と看護について健康づくりと食生活	事前：テキストを読み、人間栄養学の史的過程、食生活の変遷と現代的栄養の問題点を知り授業に臨む。 事後：食事における看護師の役割、食生活改善への施策について説明できるようになる。					講義	山口		
2	栄養素の種類とはたらき	事前：テキストを読み、栄養素の種類とはたらきを知り臨む。 事後：五大栄養素(糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、無機質)のはたらきについて説明できるようになる。					講義	山口		
3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝エネルギー代謝	事前：テキストを読み、食物の消化と栄養素の吸収・代謝について知り臨む。 事後：食物の消化と栄養素の吸収・代謝について説明できるようになる。 エネルギー代謝の測定法、様々なエネルギー消費(基礎代謝、安静時代謝、睡眠時代謝など)について説明できるようになる。					講義	山口		
4	栄養ケア・マネジメント栄養状態の評価判定	事前：テキストを読み、栄養ケア・マネジメント栄養状態の評価・判定法を知り臨む。 事後：チームアプローチと栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定法(臨床審査、身体測定、臨床検査)について説明できるようになる。					講義	山口		
5	ライフステージと栄養	事前：テキストを読み、ライフステージごとの栄養摂取の特徴と栄養摂取の要点を知り臨む。 事後：ライフステージごとの栄養摂取の特徴と栄養ケア・マネジメントの要点を説明できるようになる。					講義	山口		
6	臨床栄養—栄養補給法	事前：テキストを読み、臨床栄養における栄養補給法について知り臨む。 事後：チームで取り組む栄養管理と臨床栄養における具体的な栄養補給法(経腸、経静脈)について説明できるようになる。					講義	山口		
7	臨床栄養—疾患・症状別食事療法の実際	事前：テキストを読み、臨床栄養における疾患・症状別の食事療法について知り臨む。 事後：臨床栄養における疾患・症状別(循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患、腎臓疾患、がん等)の食事療法を説明できる。嗜好や食の楽しみを考慮した治療食のあり方を知る。					講義	山口		
8	看護のための栄養学総括	事前：1回～7回までの内容を復習して臨む。 事後：看護のための栄養学の重要項目(栄養素のはたらき、消化・吸収・代謝・栄養状態の評価、ライフステージごとの栄養ケア・マネジメント、疾患別臨床栄養等)について説明できるようになる。					講義	山口		
<b>教本：</b> 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 栄養学 医学書院 そのほかは随時提示する。										
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等(20%)、定期試験(80%)で評価する。										
<b>学生へのアドバイス：</b> 看護師は、患者個々人に適正な食事や栄養食品、さらに栄養剤が提供されているかを確認し、多方面から検討する必要がある。卒業後、栄養学の授業で知り得た知識を活かし、実践を通して技術を高めたい。										

開 講 年 次	1 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習
授業科目(英文)	フィジカルアセスメント演習 (Health and Physical Assessment)					ナンバリング	N-BN42	科目分類	専門分野
担 当 教 員	牛島典子・奈良かな子・勅使河原俊子・西法子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<b>授業概要：</b> 人体の構造と機能の知識を活用し対象をフィジカルアセスメントによって、さまざまな健康問題にある人に適切な看護を行うために、看護の視点から対象の身体状況を把握することの意味を学ぶ。さらに、フィジカルアセスメントを通して、身体的な側面が対象の精神的、社会的側面に影響を及ぼされているのか把握し、看護計画に役立てることを学修する。フィジカルアセスメントとして、臓器別（消化器、呼吸器、循環器、神経、感覚器）に問診・視診・触診・打診・聴診の基本的な身体診査の手技を講義、演習を通して学ぶこととする。									
<b>授業目標：</b> 1. 人体の構造と機能で学修した知識を活用し、看護の視点に沿ってフィジカルアセスメントすることの必要性について説明することができる。 2. 身体的なアセスメントの基本となるバイタルサイン測定を確実に実施し、記録、アセスメントすることができる。 3. 系統別（呼吸器系、循環器系、腹部、皮膚、筋・骨格系、神経系、感覚器）に問診・視診・触診・打診・聴診の基本的な身体診査（フィジカルイクザミネーション）を確実に実施することができる。 4. 身体審査（フィジカルイクザミネーション）で得られた結果について、基準値と比較し、異常の早期発見や生活への影響についてアセスメントする必要性を理解できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当	
1・2	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントとは フィジカルアセスメントに必要な技術 (問診、視診、触診、打診、聴診の技術) バイタルサインとアセスメント				事前：バイタルサイン測定について復習し、授業に臨む。 事後：バイタルサイン測定について再復習し課題を提出する。		講義 演習	牛島 他	
3・4	系統別フィジカルアセスメント① 呼吸器系のフィジカルアセスメント				事前：呼吸器系のフィジカルアセスメントの事前課題を行い、課題の提出をする 事後：演習後の評価・課題を提出する。		講義 演習	牛島 他	
5・6	系統別フィジカルアセスメント② 循環器系のフィジカルアセスメント				事前：循環器系のフィジカルアセスメントの事前課題を行い、課題の提出をする。 事後：演習後の評価・課題を提出する。		講義 演習	勅使 河原 他	
7・8	系統別フィジカルアセスメント③ 腹部のフィジカルアセスメント 外皮系（皮膚）のフィジカルアセスメント				事前：腹部、皮膚のフィジカルアセスメントの事前課題を行い、課題の提出をする。 事後：演習後の評価・課題を提出する。		講義 演習	牛島 他	
9・10	系統別フィジカルアセスメント④ 筋・骨格系のフィジカルアセスメント				事前：筋・骨格系のフィジカルアセスメントの事前課題を行い、課題の提出をする。 事後：演習後の評価・課題を提出する。		講義 演習	牛島 他	
11・12	系統別フィジカルアセスメント⑤ 神経系のフィジカルアセスメント				事前：神経系のフィジカルアセスメントの事前課題を行い、課題の提出をする。 事後：演習後の評価・課題を提出する。		講義 演習	奈良 他	
13・14	系統別のフィジカルアセスメント⑥ 感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント				事前：感覚器系のフィジカルアセスメントの事前課題を行い、課題の提出をする。 事後：演習後の評価・課題を提出する。		講義 演習	奈良 他	
15	フィジカルアセスメントのまとめ 心理的・社会的側面のアセスメント				事前：事前課題を行い、課題の提出をする。 事後：授業の評価・課題を提出する。		講義	牛島 他	
<b>教本：</b> 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ：医学書院									
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況、小テスト、事前・事後課題等（40%）、定期試験（60%）等で総合評価する。 なお、課題の提出は期限厳守であり、提出が遅れた場合には減点の対象となる。									
<b>学生へのアドバイス：</b> ①講義や演習に向けて事前課題を提示するため、事前課題を行っていることが演習実施の前提とします。 ②授業前には該当する人体の構造と機能の復習をして臨むことで、理解が深まります。 ③演習では、患者役、看護師役を学生間で相互に行い、対象者の状態を理解したフィジカルイクザミネーションの基本技術を学びます。テキストや授業資料を活用して、自主的に技術の復習をして実習では確実な技術で実践できるようにしましょう。 ④毎回、小テストを実施します。知識や技術の再確認をしましょう。									

開 講 年 次	1 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演習
授業科目(英文)	生活援助技術演習Ⅱ (Nursing Care Support Ⅱ)					ナンバリング	N-BN42	科目分類	専門分野
担 当 教 員	藤井智恵子・牛島典子・奈良かな子・勅使河原俊子・西 法子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>看護技術の中心となる生活援助技術の原理・原則を学び、これら生活援助によって、生活者である対象の自然治癒力が促進され、全人的に変化していくことが、看護の専門性としての看護独自の機能であることを学修する。学修内容として、生活援助技術である休息、睡眠、食事、排泄、清潔、衣生活への援助について、安全・安楽・自立などの科学的根拠をおさえ実施できるようにする。さらに援助する際の看護師の姿勢として、倫理観に裏打ちされた態度を持って行えるように学修する。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の中心となる生活援助技術の原理・原則について説明することができる。</li> <li>2. 日常生活援助によって、生活者である対象の自然治癒力が促進され、全人的に変化することが、看護の専門性としての看護独自の機能であることを説明することができる。</li> <li>3. 看護技術における生活援助技術について、安全・安楽・自立などの科学的根拠をおさえ実施できる。</li> <li>4. 援助する際の看護師の姿勢として倫理観に裏打ちされた態度を持って実施できる。</li> </ol>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態	担 当	
1・2	・看護技術の原理・原則に基づいた日常生活援助と看護技術の提供とその成果の確認の考え方 ・睡眠・休息を促す援助の考え方と方法 ・清潔・衣生活への援助の考え方と方法			事前：看護における日常生活援助の意味について、テキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：日常生活援助における睡眠と休息、清潔への援助が対象に及ぼす意味と援助方法について学修する。			講義	藤井他	
3・4	・衣生活への援助：衣生活と寝衣交換			事前：清潔・衣生活の看護援助の考え方についてテキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義 デモンストレーション	西他	
5・6	・排泄への援助：自然排泄と排泄への援助 便器・尿器の挿入			事前：日常生活援助における排泄への援助が対象に及ぼす意味と援助方法について、テキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：理解確認小テスト、課題レポートの提出			講義 デモンストレーション 演習	勅使河原他	
7・8	・排泄への援助：おむつ交換・陰部洗浄			事前：日常生活援助におけるおむつ交換と陰部洗浄が対象に及ぼす意味と援助方法についてテキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義 デモンストレーション 演習	勅使河原他	
9・10	・清潔援助：全身清拭			事前：日常生活援助における全身清拭が対象に及ぼす意味と援助方法について、テキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：理解確認小テスト、課題レポートの提出			講義 デモンストレーション 演習	藤井他	
11・12 13・14	・清潔援助：全身清拭			事前：日常生活援助における全身清拭が対象に及ぼす意味と援助方法について、テキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：全身清拭について技術練習			演習	藤井他	
15・16	・清潔への援助：部分浴（手浴）			事前：日常生活援助における部分浴の種類と援助方法について、テキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義 デモンストレーション 演習	牛島他	
17・18	・清潔への援助：部分浴（足浴）			事前：日常生活援助における部分浴の種類と援助方法について、テキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：理解確認小テスト			講義 デモンストレーション 演習	牛島他	
19・20 21・22	・栄養を促進するための食事への援助 ・口腔ケア			事前：日常生活援助における食事への援助及び口腔への援助が対象に及ぼす意味と援助方法について、テキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：理解確認小テスト、課題レポートの提出			講義 デモンストレーション 演習	奈良他	
23・24 25・26	・清潔援助：洗髪			事前：日常生活援助における洗髪への援助が対象に及ぼす意味と援助方法について、テキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：理解確認小テスト、課題レポートの提出			講義 デモンストレーション 演習	奈良他	
27・28 29・30	・技術試験 （衣交換、おむつ交換と陰部洗浄、清拭、足浴）			事前：日常生活援助における寝衣交換とおむつ交換と陰部洗浄が対象に及ぼす意味と援助方法についてテキストをよく読み理解して授業に臨む。 事後：課題レポートの提出			演習	藤井他	
<p>教本：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 基礎看護学②、③</li> </ol>									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>授業参加態度、小テスト・課題レポート（20%）、技術確認等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。          なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。          課題の提出は提出期限を守ること、提出が遅れた場合は減点対象となる。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>療養上の世話は、看護師が独自の判断によって実施できる役割である。判断に必要となる人体の構造と機能など専門基礎科目の知識と関連させながら学習することを望む。また安全・安楽な技術が提供できるよう技術の予習をしてから授業に臨み、また復習に励んでいただきたい。技術の予習・復習では、適切な技術の習得に向けて視聴覚教材なども活用していただきたい。</p>									

開 講 年 次	1 年次 後期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	1	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	看護方法論(看護過程)演習 (Nursing Methods)					ナンバリング	N-BN42	科 目 分 類	専 門 分 野
担 当 教 員	藤井智恵子・富田幸江・牛島典子・奈良かな子・勅使河原俊子・西 法子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	そ の 他	なし							
<b>授業概要：</b> 看護実践を展開する上で、看護師としての倫理的態度とエビデンスに基づいた安全、安楽で自立を考慮した生活援助を提供できるために、事例を通して看護を提供する際の考え方を学修する。また、看護過程の展開方法では、対象の健康に関わる生活上の基本的ニーズの状況について、全人的な側面から看護の視点を用いて明らかにし、その解決に向けた援助を提供するための問題解決のプロセスについて学修する。さらに、事例に対し、看護援助を提供する学修の中で、看護活動の基盤となる援助的関係の形成の考え方とそのための看護師の姿勢について、学修を深める。									
<b>授業目標：</b> 1. 看護過程の展開の意義について説明できる。 2. 看護過程を構成する要素が説明できる。 3. 看護過程が対象の健康回復のための問題解決のプロセスであることを説明できる。 4. 事例を通して、看護過程の一連の流れについて知識として理解し、実践に活用するための方法について説明できる。 5. 看護過程の事例展開を通して、安全、安楽、自立に基づいた看護援助の提供のあり方や、看護活動の基盤となる援助的関係の形成の必要性について説明できる。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )				事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	担 当	
1	看護過程の基本的な考え方 看護過程とは何か				事前学習：シラバスの内容確認 事後学習：看護過程について学修する		講義	藤井	
2	看護過程の基本的な考え方 看護過程と対象の理解				事前学習：テキスト「看護過程と対象の理解」の熟読 事後学習：看護過程について学修する		講義	藤井	
3	看護過程の基本的な考え方 看護の基本となる援助的関係の形成				事前学習：テキスト「看護の基本となる援助的関係の形成」の熟読 事後学習：看護過程について学修する		講義 演習	藤井	
4～10	看護過程展開のための構成要素 事例を通して、看護の対象理解のために全体像をとらえながら、基本的ニーズの未充足の把握を通した看護上の問題の明確化 ①看護の視点から系統的に基本的ニーズを把握 ②身体的、精神的、社会的側面からの全体像把握 ③全体像を基にした看護の必要性の明確化 ④基本的ニーズの未充足に関する関連図の作成 ⑤個別性を踏まえた看護上の問題の明確化 ⑥看護問題の優先順位の決定				事前学習：テキスト「看護過程展開のための構成要素」熟読 事例の解剖生理、病理学の復習 事後学習：課題学習として、基本的ニーズの把握、対象の全体像把握、関連図作成、看護問題の明確化、看護問題の優先順位の決定について学修する		講義 演習	藤井 他	
11～13	看護過程展開のための構成要素 看護援助の安全・安楽・自立を考慮した計画立案・実施の考え方 ①個別性に応じた看護による期待される結果を踏まえた個別性のある看護計画 ②その人らしさを支援する個別性に応じた看護の提供 ③目標、要件に応じた評価日の設定				事前学習：課題学習として、生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱの復習 事後学習：課題学習として、短期目標、長期目標を立て、対象にふさわしい看護計画を立てる		講義 演習	藤井 他	
14・15	看護過程展開のための構成要素 ①実施した看護の評価(成果を確認)することの意義 ②評価に基づいた看護計画の修正 ③実施した看護の振り返りと学修課題の明確化				事前学習：テキスト「看護の評価」を熟読 事後学習：課題学習として、看護計画の修正を行う		講義 演習	藤井 他	
<b>教本：</b> 1. 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 2. 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 基礎看護学②、③ 医学書院					<b>参考文献：</b> 1. 看護過程と看護診断 ノーヴェルヒロカワ 2. NANDA-1看護診断 (2021-2023) 医学書院 3. エビデンスに基づく看護過程実践 中央法規				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業態度 (10%)、課題提出状況等 (30%)、定期試験 (60%) 等で総合評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目 (レポート等) についてもすべて評価しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> この科目では自らが思考することが不可欠ですので、主体的に学習に取り組みましょう。 テキスト、授業資料および参考文献を活用して理解を深めてください。									

開 講 年 次	1 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	45	授業形態	実習
授業科目(英文)	基礎看護ケア実践Ⅰ(看護活動の実際)(Basic Nursing Care practiceⅠ)					ナンバリング	N-NP12	科目分類	専門分野
担 当 教 員	富田幸江・藤井智恵子・牛島典子・奈良かな子・勅使河原俊子・西 法子 他								
履 修 条 件	前提科目	看護学原論、生活援助技術演習Ⅰの単位取得済 生活援助技術演習Ⅱ、フィジカルアセスメント演習、看護方法論演習の受験資格有							
	そ の 他	IGRA検査、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに、11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも実習条件として追加される。							
<p>授業概要：</p> <p>本実習は、健康回復のための基本的ニーズを持つ患者と初めて接する実習である。この実習の目的は、病院の看護師と共に行動をすることを通して、看護の対象である患者・家族と生活、療養環境、看護実践、ヘルスケアチームの概要を知り、病院や看護の役割について理解を深め、今後の学修の動機づけとする。</p>									
<p>授業目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の構造や機能について知ることができる。</li> <li>2. 看護の対象である患者および家族にとっての療養環境を説明できる。</li> <li>3. 看護師と共に行動をすることから看護活動や看護師の役割について説明できる。</li> <li>4. ヘルスケアチームの概要と看護師の役割について知ることができる。</li> <li>5. 患者を尊重し看護を提供するために看護専門職として倫理的態度の必要性が理解できる。</li> </ol>									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		担 当	
5 日間	<p>各自の実習指導者について実習を行う。 日程及び実習の展開は「基礎看護ケア実践Ⅰ要領」を参照すること（後日配布）。 1日目：学内にて実習オリエンテーションと自己学習 2・3・4日目：臨地実習 患者の生活、療養環境、看護実践、ヘルスケアチームの概要を知り、地域における病院や看護の役割について理解を深める。 毎日カンファレンスを行い、3日目は最終カンファレンスを行い、実習の学びを発表する。 最終日：学内にてまとめと報告会、最終個人面接を行う。</p>					「基礎看護ケア実践Ⅰ要領」参照 生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱの復習		富田 他	
<p>教本：</p> <p>看護学原論、生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト</p>					<p>参考文献：</p> <p>随時提示する。</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>実習へ態度、実習課題レポート・記録物等、別途定める実習評価基準に準ずる。 ●実習の前提として実習オリエンテーションへの出席も含むので、必ず出席すること。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>看護学原論、生活援助技術演習Ⅰ・Ⅱで学習した内容を基に実習を行いますので、実習前に復習をしておくこと。 特に技術演習は繰り返し練習を行うこと。 体調を整えて実習に臨むこと。</p>									

開講年次	1年次 後期	選択・必修	必修	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	成人発達援助論 (Introduction to Adult Nursing)					ナンバリング	N-DN32	科目分類	専門分野
担当教員	川畑貴美子								
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 成人期にある人の身体的、精神的、社会的な特徴を理解し、それらの特徴を踏まえたうえで、健康に及ぼす要因、健康が生活や社会に及ぼす影響について学ぶ。また、成人を対象とした健康上の問題に対処できる看護の役割や機能について学び、援助に必要な知識・技術・態度についても学習する。									
<b>授業目標：</b> 1. ライフサイクルにおける成人の位置づけについて説明できる。 2. 成人期にみられる健康障害について、成人の特徴・生活行動と関連づけて説明できる。 3. 成人の健康レベルに対応した看護について説明できる。 4. 成人への看護に有用な主な概念について説明できる。									
<b>授業計画、事前学習・事後学習、形式</b>									
授業回数	授業内容及び計画	事前・事後学習 (学習課題)					授業形態	担当	
1	成人看護学について 成人であるということ	事前：成人とはどのような状態かについてテキストを読み理解して授業に臨む。 事後：ワークブック作成					講義	川畑	
2	成長発達の特徴	事前：成人期の特徴を読み説明できる準備する。 事後：ワークブックの整理					講義	川畑	
3	身体機能の特徴と看護／部位別、 系統別、生活行動別の視点から	事前：身体の特徴を読み説明できる準備をする。 事後：ワークブックの整理					講義	川畑	
4	成人の生活を理解する視点と方法/ 生活スタイルの多様性、成人の生活	事前：生活と健康についての考え方を理解し、説明できるように準備をする。 事後：ワークブックの整理					講義	川畑	
5	健康観の多様性と看護	事前：健康観について、テキストをよく読み、説明できるように準備する。 事後：ワークブック整理					講義	川畑	
6	学習の特徴と看護／おとなの学びと特徴、 方法、成人の学習スタイル	事前：成人の学習のスタイルについて、テキストをよく読み、説明できるように準備する。 事後：ワークブック整理					講義	川畑	
7	生活習慣に関連する健康障害	事前：成人の健康障害についてテキストをよく読み、職業との関連が説明できるように準備する。 事後：ワークブック整理					講義	川畑	
8	ワーク・ライフ・バランスと健康障害/ 職業に関連する健康障害	事前：ワーク・ライフ・バランスと健康について、テキストをよく読み、説明できるように準備する。 事後：ワークブック整理					講義	川畑	
9	更年期にみられる健康障害と看護方法	事前：更年期にある患者について、テキストをよく読み、説明できるように準備する。 事後：1～7までの理解確認の小テスト					講義	川畑	
10	セクシュアリティとジェンダーに関連する健康障害	事前：性的健康障害について、説明できるように準備する。 事後：ワークブック整理					講義	川畑	
11	病みの軌跡／病気を持った成人の理解と看護	事前：病みの軌跡について、テキストをよく読み、説明できるように準備する。 事後：ワークブック整理					講義	川畑	
12	セルフケア／セルフケア理論の理解、 概念・理論の有用性 危機状態について	事前：セルフケアについて、理解のためにテキストをよく読み、説明できるように準備する。 事後：心身のストレスチェックを実施					講義	川畑	
13	ストレス・ストレスコーピング	事前：成人看護の特徴的な理論を理解するためにテキストをよく読み、説明できるように準備する。 事後：ワークブック整理					講義	川畑	
14	適応／適応理論と成人の理解と看護、 適応モデルの理解 自己効力／成人の理解と看護の有効性	事前：自己効力とは何か、説明できるようにテキストをよく読み、説明できるように準備する。 事後：ワークブック整理					講義	川畑	
15	ヘルスプロモーション／成人の理解と看護の有効性 まとめ／成人援助論を総括して理解する	事前：ヘルスプロモーションとは何かについて成人看護学とは何か特徴を踏まえて、説明ができるように準備する。 事後：ワークブック整理し提出する。					講義	川畑	
<b>教本：</b> 1. 安酸史子 他著：ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論、メディカ出版									
<b>参考文献：</b> 1. 小島操子著：看護における危機理論・危機介入、金芳堂、2008 2. 厚生統計協会：国民衛生の動向、最新版 3. 系統看護学講座 成人看護学① 成人看護学総論、医学書院 そのほかは随時提示する。									
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等 (5%)、小テスト等 (5%)、定期試験 (90%) 等で総合的に評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 成人期看護学は、10代後半～60代までの年齢の方々を対象とした看護です。成人期にある方々には、進路選択、就職、結婚、子育て、退職と人生のライフイベントが多くあります。その方がたが病気を抱えたとき、本人、家族がどう対処するのかを支援します。青年期の自分自身を見つめ、自分の家族に置き換えて、健康を守ること、病気に対処することを考えてみてください。									

開 講 年 次	1 年次 後期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	老年発達援助論 (Introduction to Gerontological Nursing)					ナンバリング	N-DN52	科目分類	専門分野
担 当 教 員	草地 潤子 他								
履 修 条 件	前提科目	身体の構造と機能A・Bを修得していること。							
	その他	なし							
授業概要： 年齢を重ねた存在としての高齢者をライフサイクルの視点から全人的にとらえ、高齢者とその家族を取り巻く環境を理解し、幅広い老年観を醸成する。老年看護に役立つ理論（サクセスフルエイジング、エンパワメント、ストレングス、選択最適化補償理論）を基盤に高齢者に対する基本的アプローチや、高齢者のQOLと倫理に関する課題について理解を深め、老年看護活動の特性について述べる事ができる。									
授業目標： 1. ライフサイクルから老年期の特徴を述べる事ができる。 2. 人口学的指標から老年期の特徴を述べる事ができる。 3. 加齢に伴う身体的、精神的、心理的变化について説明できる。 4. 高齢者の健康の特徴を説明できる。 5. 生活の視点から老年期の特徴を述べる事ができる。 6. 老年期の発達と成熟について述べる事ができる。 7. 高齢者と家族の看護について理解する。 8. 高齢社会と社会保障について理解する。 9. 老年看護の役割について理解する。 10. 老年看護における倫理的課題について説明できる。 11. 老年看護学で用いられる理論について理解する。									
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	担 当
1	ガイダンス 老年期の定義と位置づけ 加齢と老化 高齢者人口の推移 前期・後期高齢者の人口比率 老年期の発達と成熟 老年期の発達課題					事前：p2-13、4-7、11-12、24-26 p13-22 高齢者の定義と区分 加齢と老化 人口構成 発達課題 生理的老化と病的老化 その人らしい生活の継続 事後：配布資料		講義	草地
2	加齢に伴う身体的・生理的变化 ① 外観 臓器別機能の変化 感覚・運動・神経系					事前：p7-9、94-119 加齢に伴う身体機能の変化 事後：配布資料		講義	小林
3	加齢に伴う身体的・生理的变化 ② 循環・呼吸器系 消化・腎・排泄系					事前：p7-9、94-119 加齢に伴う身体機能の変化 事後：配布資料		講義	小林
4	高齢者疑似体験					事前：p7-9、94-119 事後：配布資料		演習	草地 他
5	生活の視点からの老年期の特徴 生活習慣、余暇活動、社会活動、家族・世帯構造、収入と生計、就労と雇用、収入と生計、住まい					事前：p32-36、218-224 高齢者の社会活動 高齢者の経済状況 高齢者の就労 事後：配布資料		演習	草地 他
6	健康指標における老年期の特徴 疾病構造と有病率・有訴率 受療行動・受療の動向 要介護高齢者の出現率と動向 死亡率、死因、死亡場所					事前：p28-32 平均寿命 有病率、有訴率、通院者率 受療状況 死因、死亡場所 老年症候群 要介護要因 フレイルロコモティブ シンдрーム 事後：配布資料		講義	草地
7	加齢に伴う精神的・心理的機能の変化 老性自覚と適応 知的機能 情緒的側面 性格変化 高齢者のセクシャリティ 喪失					事前：p9-11、13-19、213-218 エイジズム 知的機能とパーソナリティの 変化 喪失、うつ病 認知能力の変化 事後：配布資料		講義	草地

8	高齢者と家族 高齢者と家族のライフスタイル 家族構成、家族形態の変化 家族のニーズと生活の変化 家族の機能の変化 高齢者と家族の人間関係 高齢者虐待	事前：p26-28、55-60、373-382 家族形態 家族介護者 介護負担 高齢者虐待 事後：配布資料	講義	小林
9	高齢社会における保健医療福祉の動向 高齢者のソーシャルサポート 高齢者のサービスシステム 高齢者の医療の確保に関する法律 介護保険制度	事前：p24-54 介護保険制度 地域包括ケアシステム 高齢者医療確保法 成年後見人制度 事後：配布資料	講義	草地
10	高齢者とヘルスプロモーション 老年期のヘルスプロモーション 介護予防とヘルスプロモーション プログラムの実際	事前：p360-365 ヘルスプロモーション 健康日本21 介護予防 事後：配布資料	講義	草地
11	認知症高齢者の理解	事前：p282-316 認知症の原因疾患 中核症状 行動心理症状 事後：配布資料	講義	草地
12	高齢者におけるレクリエーションの意義と実際	事前：p282-316 音楽療法 事後：配布資料	講義	ゲスト スピーカー
13	高齢者終末期における看護 終末期医療と意思決定	事前：p348-358 アドバンスケアプランニング リビングウィル 臨死期の症状 事後：配布資料	講義	小林
14	高齢者看護にかかわる理論	事前：p70-83 エンパワメント ストレングス 事後：配布資料	講義	小林
15	高齢者看護の基本 高齢者看護の特性 高齢者看護にかかわる理論	事前：p360-373、54-67 健康寿命 CGA、ICF 身体拘束の例外三原則 事後：配布資料	講義	草地
教本： 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院		参考文献： 随時提示する。		
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（80%）等をもとに総合的に評価する。 なお、定期試験を受験できなかった場合は、定期試験以外の項目（レポート等）についてもすべて評価しない。				
学生へのアドバイス： 講義に関連する既修得科目の復習をして講義に臨む （身体の構造と機能、ライフステージと発達看護論、生活援助技術演習他）				

